資料 2

報	1			
総会	183			

日本学術会議活動状況報告

会長、副会長、各部部長 及び若手アカデミー代表報告資料

日本学術会議活動状況報告

令和3年12月2日

前回(第182回)総会以降の活動状況報告

第1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
5月8日 (土)	学術フォーラム コロナ禍を共に生きる[新型コロ	梶 田 会 長
	ナウイルス感染症の最前線-what is known and	望月副会長
	unknown#1]「新型コロナウイルスワクチンと感	
	染メカニズム」(オンライン)	
5月13日(木)	第 20 回アジア学術会議(オンライン)	梶 田 会 長
~14 日(金)		髙村副会長
5月27日(木)	記者会見(オンライン)	梶 田 会 長
		菱田副会長
		望月副会長
		髙村副会長
		小 林 幹 事
5月31日(月)	日本地球惑星科学連合大会(オンライン)	梶 田 会 長
6月 1日(火)	「学術の動向」座談会	梶 田 会 長
6月20日(日)	公開シンポジウム「脳とこころから見た With/Post	梶 田 会 長
	コロナ時代のニューノーマルの課題と展望」(オン	
	ライン)	
6月24日(木)	記者会見(オンライン)	梶 田 会 長
		菱田副会長
		望月副会長
		髙村副会長
		小 林 幹 事
6月27日(日)	公開シンポジウム「脳とこころから見た With/Post	梶 田 会 長
	コロナ時代のニューノーマルの課題と展望」(オ	
	ンライン)	

7 月3 日(土)	学術フォーラム「気候変動等による地球環境の緊	髙村副会長
	急事態に社会とどう立ち向かうかー環境学の新展	
	開一」(オンライン)	
7月15日(木)	S20 及び SSH20 アカデミー会長オンライン会合	梶 田 会 長
		髙村副会長
7月17日(土)	公開シンポジウム「新型コロナワクチンを正しく	望月副会長
	知る」(オンライン)	
7月20日(火)	海外アカデミー会長経験者等 (ドイツ・カナダ)	梶 田 会 長
	との会談(オンライン)	菱田副会長
		望月副会長
		高村副会長
7月29日(木)	記者会見(オンライン)	梶 田 会 長
		菱田副会長
		望月副会長
		髙村副会長
		小 林 幹 事
7月30日(金)	第1回日本学術会議中部地区会議講演会	梶 田 会 長
7月30日(金)	海外アカデミー会長経験者等(英国)との会談	梶 田 会 長
	(オンライン)	菱田副会長
		高村副会長
8月15日(日)	令和3年度 全国戦没者追悼式	梶 田 会 長
8月18日(水)	公開シンポジウム「ジェンダード・イノベーショ	梶 田 会 長
	ン(Gendered Innovations)~一人ひとりが主役の	
	研究開発が新しい未来を拓く~」	
8月26日(木)	記者会見(オンライン)	梶 田 会 長
		菱田副会長
		望月副会長
		髙村副会長
		小 林 幹 事
8月27日(金)	ASEAN 設立 54 周年記念シンポジウム「『ニュー	髙村副会長
	ノーマル』における ASEAN の経済的および社会的	
	地域統合」	
8月30日(月)	国際計測連合第23回世界大会(オンライン)	髙村副会長
9月9日 (木)	世界科学フォーラム (WSF)執行委員会 (オンライ	髙村副会長
	ン)	

9月9日 (木)	公益社団法人計測自動制御学会創立 60 周年記念式 典 (オンライン)	梶 田 会 長
9月11日(土)	緊急フォーラム「新型コロナウイルス感染症の災 害級流行急拡大への対応」(オンライン)	望月副会長
9月16日(木)	カーボンニュートラル (ネットゼロ) に関する連 絡会議 (オンライン)	梶 田 会 長
9月18日(土)	学術フォーラム コロナ禍を共に生きる[新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown #2]「新型コロナウイルス感染症の臨床的課題、対策と今後の方向性:臨床の現場を知り、何をすべきか一緒に考えましょう。」(オンライン)	梶 田 会 長
9月22日(水)	S20 及び SSH20 本体会合 (ハイブリッド)	梶 田 会 長髙 村 副 会 長
9月25日(土)	公開シンポジウム「WITH/AFTER コロナ時代の看護 とデジタルトランスフォーメーション」	梶 田 会 長
9月28日(火)	第17回世界地震工学会議(ハイブリッド)	梶 田 会 長
9月29日(水) ~30日(木)	フューチャー・アース総会(オンライン)	髙村副会長
9月30日(木)	記者会見(オンライン)	展 田 会 長 長 田 副 会 長 長 長 長 長 長 長 東 林 幹
10月4日(月)	第2回アジア熱科学会議(オンライン)	梶 田 会 長
10月4日(月)	STS フォーラム アカデミー・プレジデンツ会合(オンライン)	梶 田 会 長髙 村 副 会 長
10月11日(月)	SIP AI ポスピタルによる高度診察・治療システム 現地視察(オンライン)	梶 田 会 長
10月11日(月) ~14日(木)	ISC 総会(オンライン)	梶 田 会 長
10月12日(火) 14日(木) 15日(金)	ISC 総会(オンライン)	髙村副会長

_		
10月23日(土)	学術フォーラム コロナ禍を共に生きる#3「パン	望月副会長
	デミックに世界はどう立ち向かうのか〜国際連携	
	の必然性と可能性~」(オンライン)	
10月24日(日)	第 19 回国際動脈硬化学会議(国立京都国際会館)	髙村副会長
10月26日(火)	日本医学会連合 門田会長ご対談	梶 田 会 長
10月27日(水)	第3回 CSTI 教育人材育成 WG (オンライン)	梶 田 会 長
10月27日(水)	日本再生医療学会/国際幹細胞学会国際シンポジ	髙村副会長
	ウム 2021(オンライン)	
10月27日(水)	IAP 年次会合(オンライン)	髙村副会長
~29 日(金)		
10月28日(木)	公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェン	望月副会長
	ダー・ダイバーシティー大学における女性リーダ	
	ーから見た課題と展望ー」(オンライン)	
10月28日(木)	記者会見(オンライン)	梶 田 会 長
		菱田副会長
		望月副会長
		髙村副会長
		小林幹事
10月30日(土)	地区会議(東北地区)災害と文明:災害に対する	望月副会長
	社会の対応(オンライン)	
11月1日(月)	地区会議(九州・沖縄地区)持続可能な地域の強	菱田副会長
	靱化と将来空間像~防災・減災対策の次なるステ	
	ージを目指して~(オンライン)	
11月3日(水・祝)	地区会議(北海道地区)コロナ・ポストコロナ時	菱 田 副 会 長
	代の社会課題の解決に向けて ―記録・国際協力・	
	情報技術—	
11月3日(水・祝)	公開シンポジウム「地域共生社会における薬剤師	望月副会長
	像を発信する」(オンライン)	
11月16日(火)	第27回マグネット技術国際会議	梶 田 会 長
11月22日(月)	持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022	梶 田 会 長
	(IYBSSD2022) 連絡会議	
11月25日(木)	記者会見(オンライン)	梶 田 会 長
		菱田副会長
		望月副会長
		髙村副会長
		小林幹事
	<u> </u>	1 7 11 7

第2 会長談話

次の会長談話を公表した。

- 1 日本学術会議会長談話「新型コロナウイルス感染症とワクチン接種をめぐって」 (令和3年6月24日公表)
- 2 日本学術会議会長談話「第 25 期日本学術会議発足 1 年にあたって (所感)」 (令和 3 年 9 月 3 0 日公表)
- 3 日本学術会議会長談話「眞鍋淑郎先生のノーベル物理学賞受賞を祝して」 (令和3年10月15日公表)
- 4 日本学術会議会長談話「国際学術会議 (ISC) の理事会役員選挙における日本人役員の 選出について」 (令和3年10月15日公表)

第3 提言の承認

1 科学者委員会研究評価分科会

「学術の振興に寄与する研究評価を目指して-望ましい研究評価に向けた課題と展望 -」 (令和3年11月25日公表)

第4 学術フォーラム

- 1 日本学術会議主催学術フォーラム 「コロナ禍を共に生きる[新型コロナウイルス 感染症の最前線-what is known and unknown # 1]「新型コロナウイルスワクチンと 感染メカニズム」を令和 3 年 5 月 8 日(土)にオンラインにて開催した。
- 2 日本学術会議主催学術フォーラム「気候変動等による地球環境の緊急事態に社会 とどう立ち向かうかー環境学の新展開ー」を令和3年7月3日(土)にオンライン にて開催した。
- 3 日本学術会議主催学術フォーラム コロナ禍を共に生きる[新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown#2]「新型コロナウイルス感染症の臨床的課題、対策と今後の方向性:臨床の現場を知り、何をすべきか一緒に考えましょう。」を令和3年9月18日(土)にオンラインにて開催した。
- 4 日本学術会議主催学術フォーラム コロナ禍を共に生きる#3「パンデミックに世界はどう立ち向かうのか~国際連携の必然性と可能性~」を令和3年10月23日 (土)にオンラインにて開催した。
- 5 日本学術会議主催学術フォーラム「カーボンニュートラル社会を支える最先端分析技術」を令和3年11月11日(木)にオンラインにて開催した。

第5 国際会議の開催

- 1 共同主催国際会議「国際計測連合第23回世界大会」を令和3年8月29日 (日)~9月3日(金)にオンラインにて開催した。
- 2 共同主催国際会議「第17回世界地震工学会議」を令和3年9月26日(日)~ 10月2日(土)に宮城県(オンラインで同時配信)にて開催した。
- 3 共同主催国際会議「第2回アジア熱科学会議」を令和3年10月3日(日)~ 7日(木)にオンラインにて開催した。
- 4 共同主催国際会議「第19回国際動脈硬化学会議」を令和3年10月24日 (日)~27日(水)に京都府(オンラインで同時配信)にて開催した。
- 5 共同主催国際会議「日本再生医療学会/国際幹細胞学会国際シンポジウム 2021」を令和3年10月27日(水)~30日(土)にオンラインにて開催した。
- 6 共同主催国際会議「第27回マグネット技術国際会議」を令和3年11月14日 (日)~19日(金)に福岡県(オンラインで同時配信)にて開催した。

第6 日本学術会議地区会議

- 1 中部地区会議主催 学術講演会「高齢社会を生きぬくための取り組み」を令和3年 7月30日(金)に石川県(オンラインで同時配信)にて開催した。
- 2 公開シンポジウム「ジェンダード・イノベーション(Gendered Innovations)~一人 ひとりが主役の研究開発が新しい未来を拓く~」を第三部、中国・四国地区会議及 び科学者委員会男女共同参画分科会等の主催で令和3年8月18日(水)にオンラ インにて開催した。
- 3 近畿地区会議主催 学術講演会「カーボンニュートラル: 2050 年までに何をすべき か」を令和3年9月20日(月)にオンラインにて開催した。
- 4 東北地区会議主催 学術講演会「災害と文明-災害に対する社会の対応-」を令和 3年10月30日(土)にオンラインにて開催した。
- 5 九州・沖縄地区会議主催 学術講演会「持続可能な地域の強靭化と将来空間像~防災・減災対策の次なるステージを目指して~」を令和3年11月1日(月)にオンラインにて開催した。
- 6 北海道地区会議主催 学術講演会「コロナ・ポストコロナ時代の社会課題の解決に向けて一記録・国際協力・情報技術―」を令和3年11月3日(水)にオンラインにて開催した。

第7 会員の辞職

1 佐治 英郎会員が、令和3年9月14日付で定年退職した。

第8 慶弔等

1 慶事

令和3年春の褒章受章者 令和3年4月29日公表

【紫綬褒章】

長田 裕之(特任連携会員(第25期))

神取 秀樹 (連携会員 (第 24-25 期))

佐藤 薫 (連携会員 (第 20-25 期))

中山 敬一(元連携会員(第20期))

西森 秀稔 (元連携会員 (第20期、22-23期))

福田 慎一(元連携会員(第20-24期))

水島 昇(元特任連携会員(第24期))

令和3年春の叙勲受章者 令和3年4月29日公表

【瑞宝重光章】

相澤 益男 (元連携会員 (第 20-23 期))

羽生佐和子(連携会員(第20-25期))

【瑞宝中綬章】

赤堀 文昭 (元連携会員 (第 20-23 期))

板谷 謹悟(元連携会員(第20-23期))

今田 高俊(元会員(第20-22期)・連携会員(第23-25期))

大園 成夫 (元連携会員 (第 20-21 期))

木内 学(元連携会員(第20-21期))

齋藤 毅憲 (元連携会員(第 20-21 期))

笹川 千尋 (元会員 (第 22-23 期)・連携会員 (第 20-21、24-25 期))

白鳥 正樹 (元連携会員(第 21-22 期))

高井 義美(元連携会員(第20-23期))

土井 正男 (元連携会員 (第 20-22 期))

広瀬 茂男 (元連携会員 (第 20-23 期))

向井 清 (元連携会員 (第 20-23 期))

向殿 政男 (連携会員 (第 20-25 期))

望月 常好(連携会員(第22-25期)・元特任連携会員(第21期))

山形 俊男 (連携会員 (第 20-25 期))

米倉 義晴 (元会員 (第 22-23 期)·連携会員 (第 20-21、24-25 期))

令和3年文化勲章受章者 令和3年10月26日公表

森 重文(元連携会員(第20期))

令和3年文化功労者 令和3年10月26日公表

青柳 正規 (元会員 (第 20-21 期)·元連携会員 (第 22-23 期))

内田 伸子 (元会員 (第 20-21 期)・連携会員 (第 22-25 期))

川合 眞紀 (元会員 (第 22-23 期)・連携会員 (第 20-21, 24-25 期))

鈴木 厚人 (元連携会員 (第 20-21 期))

須田 立雄(元連携会員(第20-21期))

中村 祐輔 (元会員 (第 20-22 期)

令和3年秋の褒章受章者 令和3年11月3日公表

【紫綬褒章】

塚谷 裕一(連携会員(第20-25期))

吉村 昭彦(連携会員(第20期、第22-25期))

沼上 幹(元連携会員(第21-22期))

令和3年秋の叙勲受章者 令和3年11月3日公表

【瑞宝大綬章】

松本 紘 (元連携会員(第 20-21 期))

【瑞宝重光章】

大塚啓二郎(連携会員(第20-25期))

近藤 孝男 (元会員 (第 23-24 期、)・連携会員 (第 20-23、25 期) ・元特任連 携会員 (第 24 期))

谷口 維紹 (元会員 (第 20-21 期) • 元連携会員 (第 22-23 期))

藤吉 好則 (元会員 (第 22-23 期) • 元連携会員 (第 20 期))

【瑞宝中綬章】

阿藤 誠 (元連携会員 (第 20-21 期))

有本 章 (元連携会員 (第 20-23 期))

久保 司郎 (元連携会員 (第 21-24 期))

小林 猛 (元連携会員 (第 20-21 期))

鈴木 浩平 (元連携会員 (第 20-21 期))

千田 稔 (元連携会員 (第 20-21 期))

橘 邦英 (元連携会員 (第 20-23 期))

田中 英彦 (元会員 (第 20-21 期)・元連携会員 (第 22-23 期)))

中尾 一和 (元連携会員 (第 20-22 期))

長濱 嘉孝 (元連携会員 (第 20-23 期))

二宮 敬虔(元連携会員(第20期))

伏見 譲 (元連携会員 (第 20-22 期))

吉岡 利忠 (元連携会員 (第 20-21 期))

2 ご逝去

清野 進(せいの すすむ) 令和3年4月14日 享年72歳 連携会員(第20-21期、第22-23期、第24-25期)

根岸 英一(ねぎし えいいち) 令和3年6月6日 享年85歳 栄誉会員、ノーベル賞受賞者、元連携会員(第21-22期)

益川 敏英(ますかわ としひで) 令和3年7月23日 享年81歳 栄誉会員、ノーベル賞受賞者、元連携会員(第21-22期)

荻田 太(おぎた ふとし) 令和3年8月15日 享年56歳 連携会員(第24-25期)

吉岡 充弘(よしおか みつひろ) 令和3年9月7日 享年63歳 会員(第24-25期)、北海道大学大学院医学研究院教授

第9 その他

事務局人事異動

参事官(審議第一担当) 旧:高橋 雅之

新: 增子 則義

(令和3年5月1日付)

事務局長 旧:福井 仁史

新:三上 明輝

(令和3年9月1日付)

参事官(国際業務担当) 旧:市川 恭子

新:寺内 彩子

(令和3年9月1日付)



2021年4月から2021年11月の活動報告

第183回総会 第25期 日本学術会議会長 梶田 降章

報告の内容

- 会員任命問題への対応
- 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」の具体化
- CSTI での「日本学術会議の在り方に関する政策討議」対応
- 国際活動
- 新型コロナウイルス感染症への学術の対応
- 会長談話一覧
- 記者会見一覧

2

会員任命問題への対応

- (4月22日 「日本学術会議会員任命問題の解決を求めます」の総会決定)
- 9月30日 会長談話「第25期日本学術会議発足1年にあたって(所感)」の発表。

日本の科学者の代表機関としての本会議が科学者としての専門性に基づいて推薦した会員候補者が任命されず、その理由さえ説明されない状態が長期化していることは、残念ながら、科学と政治との信頼醸成と対話を困難にするものだと言わなければなりません。第25期発足から1年にあたり本会議は、第182回総会声明を再度確認して、相互の信頼にもとづく対話の深化を通じて現在の危機を乗り越える努力が重ねられることを強く希求いたします。

(10月4日 岸田内閣発足)

- 11月25日 小林内閣府特命担当大臣(科学技術政策)との会談で相互の信頼に基づく政府との対話と会員任命問題の解決に向けた協力を求める。
- (12月2日 総会において任命問題に対する対応を議論予定)

「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」の具体化

(4月22日 総会にて「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」の決定)

【国際活動の強化】

- ▶ ドイツ・カナダ・英国の各アカデミー会長経験者等との会談を実施(7月)
- 国際学術団体役員を務める会員等と意見交換会を実施(8月)
- 外国人アドバイザー(会長補佐(国際担当))の委嘱(12月)

【意思の表出と科学的助言機能の強化】

- ⇒ 課題ごとに関係する委員会・分科会間が連携する「委員会等連絡会議」の整備(6月) (カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議、パンデミックと社会に関する連絡会議、持続可能な発展のための国際基礎科学年2022連絡会議の設置(6月~7月))
- ▶ 提言等の在り方の見直し等について、会員、分科会委員長等を務める連携会員、若手アカデミーとの意見交換の実施(10月~11月)

【対話を通じた情報発信力の強化】

- > 国立大学協会、公立大学協会、日本私立大学連盟、日本私立大学協会との意見交換の実施(7月~9月)
- 学術会議アドバイザー(広報担当)の委嘱(10月)

(12月2, 3日 総会にて、提言のあり方、会員選考方法などを議論予定)

CSTI での「日本学術会議の在り方に関する政策討議」対応

- 5月20日(第1回)
 - 1.日本学術会議の在り方の検討に関する現状について
 - 2.意見交換【非公開】
- 7月1日(第2回)
 - 1.日本学術会議の役割・目的等
 - 2.意見交換【非公開】
- 8月5日(第3回)
 - 1.日本学術会議における改革の進捗報告等について
 - 2.井村裕夫 元日本学術会議の在り方に関する専門調査会会長との意見交換等【非公開】
- 9月9日(第4回)
 - 1.日本学術会議 令和4年度予算概算要求について
 - 2.尾池和夫 元日本学術会議の新たな展望を考える有識者会議座長との意見交換等【非公開】
- 10月28日(第5回)
 - 1.日本学術会議 改革の進捗状況について
 - 2.「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」についての意見交換等【非公開】
- 11月25日(第6回)

「日本学術会議のより良い役割発揮にむけて」について意見交換等【非公開】

国際活動

- S20(Science 20)、SSH20(Social Sciences and Humanities 20)2021 [9月22日~23日]
 - ➤ Pandemic preparedness and the role of science (パンデミックの備えと科学の役割(仮訳))
 - Crises: economy, society, law, and culture Towards a less vulnerable humankind —
 (危機:経済、法及び文化 より脆弱でない人類をめざして(仮訳))
- SSH7(Social Sciences and Humanities 7)【11月16日】
 - ➤ Community Engagement /コミュニティ・エンゲージメント(仮訳)
 - ➤ Education, Skill, and Employment /教育、技能、雇用(仮訳)
 - Trust, Transparency & Data Gathering /信頼性・透明性のあるデータ収集(仮訳)
 - ▶ Inequalities & Cohesion /格差と結束(仮訳)
 - ➤ Fiscal Policy /財政政策(仮訳)
- Academy of Science Presidents' Meeting[10月4日]

テーマ: The Effects of Climate Change on the Ocean and the Polar Regions (海洋および極地への気候変動の影響)

- ISC (International Science Council)への参画
 ISC総会(10月11日~15日)において、小谷元子連携会員が次期会長、白波瀬佐和子会員が財務担当副会長に選出
- 国際学術団体への代表派遣
- 共同主催国際会議の開催

新型コロナウイルス感染症への学術の対応

- 学術フォーラムのシリーズ化(新型コロナウイルス感染症の最前線、コロナ禍を共に生きる)
 - ▶「新型コロナウイルスワクチンと感染メカニズム」(5月8日)
 - ▶「新型コロナウイルス感染症の臨床的課題、対策と今後の方向性:臨床の現場を知り、何をすべきか一緒に考えましょう。」(9月18日)
 - ▶「パンデミックに世界はどう立ち向かうのか~国際連携の必然性と可能性~」(10月23日)
 - ※このほかにも、新型コロナウイルスに関する様々なシンポジウムを開催
- 連絡会議の設置
 - パンデミックと社会に関する連絡会議を設置(7月29日)
- 情報発信の強化

2021.4.24

- ⇒ 学術会議トップページに「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)特設ページ」へのバナーを設置
- ▶「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)特設ページ」において情報を集約して紹介っ

新型コロナウイルス感染症に関係する公開シンポジウム等(2021.4~)

公開シンポジウム「くすりのエキスパートが語る"よくわかる新型コロナウイルスワクチン"」

2021.5.8	学術フォーラム コロナ禍を共に生きる[新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown#1] 「新型コロナウイルスワクチンと感染メカニズム」
2021.6.20	公開シンポジウム「脳とこころから見たWith/Postコロナ時代のニューノーマルの課題と展望1」
2021.6.27	公開シンポジウム「脳とこころから見たWith/Postコロナ時代のニューノーマルの課題と展望2」
2021.6.27	公開シンポジウム「コロナ禍における社会福祉の課題と近未来への展望~直面する危機から考える~」
2021.6.29	公開講演会「新型コロナウィルス感染症対策の現状と今後ー歯科からの発信ー」
2021.7.3	公開シンポジウム「コロナ下において考えるべき栄養」
2021.7.17	公開シンポジウム「新型コロナワクチンを正しく知る」
2021.8.28	公開シンポジウム「ポストコロナ社会を見据えた睡眠・生活リズムのあり方~コロナ自粛から学ぶ~」
2021.8.29	公開シンポジウム「コロナ禍におけるトリアージの問題——世界の事例から日本を考察する」
2021.9.18	学術フォーラム コロナ禍を共に生きる[新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown#2] 「新型コロナウイルス感染症の臨床的課題、対策と今後の方向性:臨床の現場を知り、何をすべきかー緒に考えましょう。」
2021.9.22	公開シンポジウム「海空宇宙のCOVID-19対応と今後のパンデミック対応に向けて」
2021.9.25	公開シンポジウム「WITH/AFTERコロナ時代の看護とデジタルトランスフォーメーション」
2021.10.23	学術フォーラムコロナ禍を共に生きる#3

「パンデミックに世界はどう立ち向かうのか~国際連携の必然性と可能性~」

会長談話一覧

- •「新型コロナウイルス感染症とワクチン接種をめぐって」(令和3年6月24日)
- •「第25期日本学術会議発足1年にあたって(所感)」(令和3年9月30日)
- •「眞鍋淑郎先生のノーベル物理学賞受賞を祝して」(令和3年10月15日)
- •「国際学術会議(ISC)の理事会役員選挙における日本人役員の選出について」 (令和3年10月15日)

9

記者会見一覧

年月日	主な会見内容
令和3年4月22日	 ▶ 声明「日本学術会議会員任命問題の解決を求めます」 ▶ 日本学術会議のより良い役割発揮に向けて ▶ 公開シンポジウム「くすりのエキスパートが語る"よくわかる新型コロナウイルスワクチン"」 ▶ 学術フォーラム コロナ禍を共に生きる[新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown #1]「新型コロナウイルスと感染メカニズム」
令和3年5月27日	 ▶ 第20回アジア学術会議報告 ▶ 学術フォーラム・公開シンポジウム開催報告 ▶ 今後開催予定の公開シンポジウムについて ▶ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)特設ページについて
令和3年6月24日	 ▶ 日本学術会議会長談話「新型コロナウイルス感染症とワクチン接種をめぐって」 ▶ 公開シンポジウム「新型コロナワクチンを正しく知る」の開催について ▶ 科学的助言機能・「提言」等のあり方の見直しについて ▶ 委員会等連絡会議の設置について ▶ 「カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議」設置の背景と趣旨 ▶ 我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会設置要綱 ▶ 今後開催予定の公開シンポジウムについて

記者会見一覧

年月日	主な会見内容
令和3年7月29日	 第3回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会「激化する気象災害への備え」 公開シンポジウム「新型コロナワクチンを正しく知る」開催報告 学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について 「パンデミックと社会に関する連絡会議」の設置の背景と趣旨 課題別委員会「ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研究・臨床応用に関する委員会」運営要綱
令和3年8月26日	▶ S20及びSSH20共同声明2021▶ 日本アセアンセンターとの協働・連携について▶ 学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について
令和3年9月30日	 ▶ 日本学術会議会長談話「第25期日本学術会議発足1年にあたって(所感)」 ▶ 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」に掲げた具体的な取組事項の進捗状況 ▶ カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議(第1回)開催報告 ▶ 新型コロナウィルス感染症に関する公開講演会報告 ▶ 学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について
令和3年10月21日	▶ ISC役員選挙に関する共同記者会見(小谷元子連携会員、白波瀬佐和子会員)
令和3年10月28日	▶「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」に掲げた具体的な取組事項の進捗状況▶ 学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

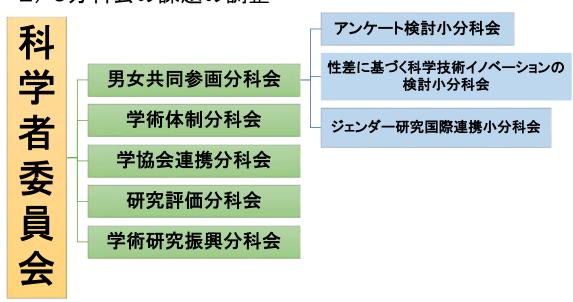
日本学術会議総会報告 組織運営・科学者間の連携 (2021.4.21~2021.12.1)

- 1 科学者委員会 同分科会
- 2 地区会議
- 3 地方学術会議
- 4 若手アカデミー
- 5 財務委員会

2021年12月2日 担当副会長 望月 眞弓

1. 第25期科学者委員会の構成 (分科会等の活動状況)

- 1) 科学者コミュニティに関する全体的課題の検討
- 2) 5分科会の課題の調整



1. 科学者委員会

(委員長:望月 眞弓)

■開催実績

- ◇ 第7回(2021.5.10)
 - ・研究評価分科会提言案について
- ◇第8回~第12回 メール審議
- ・地区会議主催学術講演会の開催について、後援名義の承認について、協力学術研究団体の指定について ほか

1-1. 男女共同参画分科会

(委員長:望月 眞弓)

•科学に関する男女共同参画の推進に関することを審議することを目的とする

女性活躍促進目標(30%)の 達成に向けて

● 大学·研究機関や学協会の実情を調査し、改善に向けて検討

ジェンダー関連分科会の24期までの活動を総括

●共通課題を整理するとともに、今後の課題を明確化 する

学術におけるダイバーシティの推進(LGBTQ/障害者/ 外国籍など)の推進

●現状を調査・分析し、今後の課題を整理

2023 年の夏に東京で開催を 予定している国際女性史連盟 主催の国際学会

■ 国内の研究者が多くの国々の研究者とネットワーク を構築できるよう検討

1-1. 男女共同参画分科会

(委員長:望月 眞弓)

■会議開催状況

- ◇第4回~第5回 メール審議
 - ・公開シンポジウム「ジェンダード・イノベーション(Gendered Innovations)~ 一人ひとりが主役の 研究開発が、新しい未来を拓く ~」
 - ・「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティー大学における女性リーダーから見た課題と 展望ー」について
- ◇第6回(2021.10.1) アンケート科学的助言案について関係省庁、大学関係団体との意見交換を実施

■シンポジウム等

- ◇公開シンポジウム「ジェンダード・イノベーション(Gendered Innovations)~一人ひとりが主役の研究開発が新しい未来を拓く~」(2021.8.18)
- ※日本学術会議第三部、日本学術会議中国・四国地区会議、国立大学法人広島大学、本分科会主催 ◇公開シンポジウム「公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティー大学における女性リーダーから見た課題と展望ー」(2021.10.28)
 - ※日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会主催、本分科会共催

1-1. 男女共同参画分科会 1-1-1.アンケート検討小分科会

(委員長:三成 美保)

■審議事項

- ①24 期に実施した全国的なアンケートの結果を分析する。
- ②分析結果を科学的助言としてまとめ、発出する。
- ③データを適切に管理し、学術会議関係者及び研究者が利用できるように整理する。
- ④文系及び理系の学協会連合が実施したアンケート結果との比較分析を行い、情報を関係組織と共有する。

■会議開催状況

◇第2回(2021.8.24)

アンケート科学的助言案の取りまとめ

◇第3回(2021.10.1)

アンケート科学的助言案について関係省庁、大学関係団体との意見交換を実施

1-1. 男女共同参画分科会

1-1-2. 性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会

(委員長:渡辺 美代子)

■審議事項

- ①性差による科学の成果や効果を示すデータの収集
- ②性差研究による科学的エビデンスから導かれる課題の抽出
- ③上記に関係するジェンダー関連情報の収集と課題の抽出
- ④ジェンダーに基づく科学技術イノベーションの科学者コミュニティと社会への周知と啓発

■会議開催状況

◇第2回(2021.5.21)、第3回(2021.6.4)、第4回(2021.8.6)、第5回(2021.8.11)、

第6回(2021.9.17)、第7回(2021.11.26)

委員・外部講師による話題提供、今後の活動について

1-1. 男女共同参画分科会 1-1-3.ジェンダー研究国際連携小分科会

(委員長:高橋 裕子)

■審議事項

- ①国内の学協会及び研究会との連携
- ②日本学術会議内ジェンダー関連分科会との学際的な連携
- ③研究者の国際的なネットワーク構築に関すること

■会議開催状況

◆第1回会議(令和3年4月30日)

3年後に東京開催予定の国際女性史連盟国際大会での報告のための準備の議論。学術会議の活動の検証のための調査を実施した(次ページ表)。

◆第2回会議(令和3年7月9日)

参考人から科研費 挑戦的研究(萌芽) 19K21738「女性学長はなぜ増えないのか」の研究成果報告を受けた。

〇日本学術会議会員女性割合

	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期
総数(人)	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210	210	204
女性(人)	1	3	3	4	1	2	7	13	42	43	49	49	69	77
女性割合	0.5%	1.4%	1.4%	1.9%	0.5%	1.0%	3.3%	6.2%	20.0%	20.5%	23.3%	23.3%	32.9%	37.7%

〇日本学術会議の連携会員女性割合

	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期
総数(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	1,982	1,899	1,900	1,882	1,883	1,901
女性(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	227	238	314	420	542	598
女性割合	-	-	ı	-	-	-	-	-	11.5%	12.5%	16.5%	22.3%	28.8%	31.5%

※数値は、改選時時点

1-2. 学術体制分科会

(委員長:吉村 忍)

・学術の制度・振興等に関する諸問題を審議することを目的とする。

第6期科学技術・イノベーション基本計画のフォローアップ

- ・前期提言発出後に科学技術基本法が改正され、「イノベーションの 創出」の概念が追加されたほか、第一条の「人文科学のみに係るもの を除く」規定が削除され、法律及び基本計画の名称が変更された
- ・1部・2部・3部の部を超えた取組が一層重要となっている

研究インテグリティに 関する検討

- ・学術分野においてオープン化、国際化が急速に進展する中で、研究 インテグリティの観点から、国内外の現状調査、課題の整理、今後の 対応方策について検討
- ・今後、関係機関のヒアリング等を実施予定

その他

- ・学術体制・学術法制の国際比較調査・課題の整理
- ・中長期的観点から、学術を学際的・文理融合的に推進するための 在り方の検討に関すること

1-2. 学術体制分科会

■開催実績

◇第1回(2021, 2, 4)

委員長の選出、副委員長、幹事決定、今期の活動方針 他

◇第2回(2021. 4.28)

調査報告書「オープン化、国際化する研究におけるインテグリティ」に関するヒアリング(参考人 国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー岩瀬 公一氏)、質疑応答、主な検討課題と今後の審議予定について

◇第3回(2021.6.7)

各大学における研究インテグリティへの対応に関するヒアリング 小谷元子先生(連携会員、東北大学副学長・理事)、渡部俊也先生(東京大学産学協創推進本部本部長、東京大学未来ビジョン研究センター教授、東京大学副学長)、質疑応答など

◇第4回(2021.7.1)

各大学における研究インテグリティへの対応に関するヒアリング 尾上 孝雄先生(連携会員、大阪大学理事・副学長)、質疑応答など

現在、論点を中間報告として取りまとめ中。

1-3. 学協会連携分科会

(委員長:米田 雅子)

・学協会連携分科会は、学協会と日本学術会議の連携の推進と、学協会の 機能強化に関する諸課題を審議することを目的とする

連携

・日本学術会議と学協会の新たな連携体制づくりの検討

規程見直し

· 学協会、学会連合、連携体等のあり方を検討するとともに、協力学術研究団体の規定の見直しを検討

学協会法人化

· 学協会の法人化における諸課題の整理と学術団体にふ さわしい法人形態の検討

1-3. 学協会連携分科会

(委員長:米田 雅子)

■会議開催状況

◇第3回(2021.7.26)

各分野(各部)の学協会の現状と課題等を議題に、学協会と日本学術会議の連携の現状と今後について議論

◇第4回(2021.9.8)

日本医学会連合 門田守人会長「学術団体の社会的責務を考える」

日本教育学会 広田照幸前会長「学術の知と大学・学会・日本学術会議」と題する講演

■活動状況

◇ 10~11月 学術会議と学協会の連携状況を把握するための調査を実施

協力学術研究団体

- ■協力学術研究団体
 - 2,099団体(2021年11月現在)
- ■4月総会からの承認団体

19団体

■協力学術研究団体規程改正(24期)の運用

主な改正点:

(研究者の区分)その他、当該研究分野について、学術論文、学術図書、研究成果による 特許等の研究業績を有する者

(機関誌)「複数の学協会が発行する合同機関誌」「当該団体が編集し出版社等が発行する機関誌」を個別審査の上で、当該団体の機関誌とみなす。

1-4. 研究評価分科会

(委員長:武田 洋幸)

■審議事項

- ①研究評価のあり方についての全体的検討
- ②関連する過去の提言等のフォローアップ
- ③国内外の研究評価のあり方についての調査
- 4分野別研究評価のあり方についての検討
- ⑤若手支援としての研究評価のあり方についての検討に係る審議に関すること
- ⑥24 期の審議結果を提言としてまとめる

■活動状況

◇2021年11月25日提言「学術の振興に寄与する研究評価を目指して~望ましい研究評価 に向けた課題と展望~」発出

1-5. 学術研究振興分科会

(委員長:光石 衛)

◆24期「研究計画・研究資金検討分科会」を再編

- ▶学術研究振興に関する課題を検討
 - 重要な学術研究の計画に関する検討
 - 研究資金(科研費・寄付金等)に関する諸問題の検討
 - 研究評価基準に関する問題の整理と課題の抽出

■会議開催状況

◇第1回(2021.7.20)

委員長の選出、副委員長、幹事決定、今期の分科会の進め方について

2. 地区会議

■地区会議の活動

■科学者との懇談会の開催・学術講演会等の開催・地区会議ニュース等の発行・地域社会の 学術の振興に寄与することを目的とする事業など

■全7地区会議(学術講演会等の実施)

- (1)北海道
- (2) 東北(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)
- (3) 関東(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県)
- (4)中部(富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)
- (5)近畿(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)
- (6)中国·四国(鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県)
- (7)九州·沖縄(福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)

◆地区会議(学術講演会 2021年4月~11月)

開催日	地区	開催形式	演題	挨拶	参加者	備考
7月30日 (金)	中部	金沢大学 +オンライ ン開催	「高齢社会を生きぬくための取り組み」	梶田会長	190名	
8月18日 (水)	中国四国	オンライン 開催	「ジェンダード・イノベーション (Gendered Innovations) ~一人ひとりが主役の研究開発が、新しい未来を拓く~」	梶田会長	450名	第三部会 と共催
9月20日 (月)	近畿	オンライン 開催	「カーボンニュートラル: 2050年までに何をすべきか」	髙村 副会長	320名	
10月30日 (土)	東北	オンライン 開催	「災害と文明:災害に対する社会の対応」	望月 副会長	100名	
11月1日 (月)	九州沖縄	オンライン 開催	「持続可能な地域の強靭化と将来空間像 ~防災・減災対策の次なるステージを目指して ~」	菱田 副会長	100名	
11月3日 (水)	北海 道	オンライン 開催	「コロナ・ポストコロナ時代の社会課題の解決に 向けて ―記録・国際協力・情報技術―」	菱田 副会長	75名	

3. 地方学術会議

◆ 地方学術会議

地方創生に関する取組を従来より強化するため、平成30年度から地方学術会議の開催を決定

2022年(令和4年)2月 福岡市「日本学術会議 in 福岡」 若手研究者が考える地方創生と学術の未来(仮)

◆ 地方学術会議委員会

25期:第2回メール審議(令和3年11月21日) 「日本学術会議 in 福岡」の開催について

◆ 学術の動向2021年6月号「特集地方学術会議 の発行」



4. 若手アカデミー

- ●若手アカデミー(25期 50名、うち特任連携会員7名(2021年11月末現在)) 45歳未満である会員又は連携会員のうちから、積極的な参加意思を持つ者(若手アカデミー運営要綱)
- ●8つの分科会による活動

学術の未来を担う人材育成分科会、学術界の業界体質改善分科会、越境する若手科学者分科会、国際分科会、情報発信分科会、地域活性化に向けた社会連携分科会、イノベーションに向けた社会連携分科会、GYA総会国内組織分科会

●24期に引き続き、科学者委員会・同附置委員会(男女共同参画分科会、学術体制分科会、学協会連携分科会、研究評価分科会、学術研究振興分科会等)に若手アカデミーから委員を選出

4. 若手アカデミー (体制について)

幹事団



代表 岩崎 渉



副代表 安田仁奈



幹事 小野 悠



幹事 松中 学





国際分科会 入江直樹



GYA 総会 国内組織分科会 新福洋子



学術界の業界体質 改善分科会 川口慎介



地域活性化に向けた 社会連携分科会 加藤千尋



学術の未来を担う 人材育成分科会 平田佐智子



越境する若手科学者 分科会 石川麻乃



情報発信分科会 髙田知実



イノベーションに向けた 社会連携分科会 高瀬堅吉



5. 財務委員会報告

(委員長:望月眞弓)

■2021年4月以降の活動

■2020年度決算報告

日本学術会議の予算、令和2年度決算、令和3年度の予算執行について審議を行い、 6月18日に会員・連携会員に対し、文書での報告を行った。

■2021年度予算執行管理

審議等予算のうち、予め留保が設けられていた総会等(※)についての予算執行状況の確認等を行い、新たに設置された委員会への配分を主とした再配分を行った。

※配分区分「総会、幹事会等、機能別委員会、課題別委員会、地方学術会議、フォーラム、地区会議」が該当。

■今後の活動予定

年度末に向けて、引き続き審議等予算の執行状況を注視し、必要に応じて再々配分の検討を行う。

また、2022年度に向けた審議等予算の配分等について審議を行う。

副会長報告

科学と社会委員会、広報委員会、 課題別委員会および委員会等連絡会議の 活動状況に関する報告 ^{令和3年4月~令和3年12月の活動}



令和3年12月2日

科学と社会委員会担当副会長 菱田 公一

学術会議と社会との関係

〇日本学術会議を取り巻く社会的情勢を踏まえ、改めて、日本の科学者の代表機関として、各国のアカデミーや国際学術団体等と連携し、諸科学の一層の向上発達を図り、社会が直面する諸課題の解決に応えるという日本学術会議の役割をよりよく果たすという観点から、日本学術会議の活動のありかたについて検討に着手(令和2年11月12日、記者会見)

〇令和3年4月22日の第182回総会において、それまでの検討状況をとりまとめ、 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」を決定・公表

<全体構成>

前文

- I 日本学術会議のより良い役割発揮に向けた設置形態
 - 1 ナショナルアカデミーの5要件
 - 2 設置形態についての検討
 - 3 検討を踏まえた評価
- Ⅱ 日本学術会議のより良い役割発揮に向けた取組
 - 1 国際活動の強化
 - 2 日本学術会議の意思の表出と科学的助言機能の強化
 - 3 対話を通じた情報発信力の強化
 - 4 会員選考プロセスの透明化の向上
 - 5 事務局機能の強化



科学と社会委員会、広報委員会、課題別委員会、委員会等連絡会議の活動を通じ、「日本学術会議の意思の表出と科学的助言機能の強化」と「対話を通じた情報発信力の強化」の実現に向けた取組を実施

日本学術会議の意思の表出と科学的助言機能の強化

委員会・分科会間の横断的な交流・連携、合同審議・提言などを可能にし、その結果を検証する仕組みの整備



- 新たに「委員会等連絡会議」を設置 (6月24日幹事会決定)
- これまでに「カーボンニュートラル (ネットゼロ)に関する連絡会議」、 「パンデミックと社会に関する連絡会 議」、「持続可能な発展のための国際 基礎科学年2022連絡会議」を設置
- 会長、幹事会が主導した課題設定、横断的審議、意思の表出
- ➤ 持続可能な開発目標(SDGs) 基礎研究力強化、オープンサイエンスなどに対応する審議体制の整備



課題別委員会として以下を新設

- 我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会(6月24日)
- ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研究・臨床応用に関する委員会(7月29日)
- ▶ 会員・連携会員の意識改革



• 「科学的助言機能・『提言』等の在り 方の見直し」の一環として、査読体制 についても抜本的に見直しを実施中

①委員会等連絡会議について

【設置趣旨】

日本学術会議の行う意思の表出には、独立した立場からより広い視野に立った社会課題の発見や、中長期的に未来社会を展望した対応のあり方の提案が期待されている。そのためには、個別分野の観点にとどまることなく、中長期的視点と俯瞰的視野と分野横断的な検討が必要であることから、幹事会、委員会、分科会、小分科会、小委員会、地区会議及び若手アカデミー間の相互の横断的な情報・意見の交換や連携を図ることが必要である。そのため、こうした検討が必要な課題について、幹事会の下に、委員会等連絡会議を設置する。

名称	設置	世話人等	参加数	当面の主な審議事項
カーボンニュートラ ル(ネットゼロ)に 関する連絡会議	6月24日	高村ゆかり副会長 吉村忍第三部部長	79分科会等	1)カーボンニュートラルに関連する学術会議での審議の状況把握と交流 2)学術会議における今後の連携、取り組みなどについて検討
パンデミックと社会 に関する連絡会議	7月29日	望月眞弓副会長 武田洋幸第二部部 長	65分科会等	1)大規模感染症、特にコロナウィルス感染症に関する課題抽出 2)抽出された課題についての部をまたぐ横断的審議の促進 3)学術会議からの適切な情報発信等
持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022 (IYBSSD20 22) 連絡会議	7月29日	野尻美保子物理学 委員会委員長	34分科会等	1) YBSSD2022に関連する関連委員会・分科会等の活動の状況把握と交流2) 学術フォーラム等の企画や連携3) 学協会等への YBSSDについての啓発等

「カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議」を 設置いたします

- カーボンニュートラルに関連する審議等を行う委員会等の代表者からなる「連絡会議」を設置いたします
- 学術会議の委員会等ですでに審議が進んでいます。例えば
 - 地球惑星科学委員会
 - 環境学委員会
 - 土木工学·建築学委員会·環境学委員会合同脱炭素社会分科会
 - 総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会持続可能な開発目標達成のための 洋上風力発電開発検討小委員会 など

※学術フォーラム「気候変動等による地球環境の緊急事態に社会とどう立ち向かうかー環境学の新展開ー」

- 日時: 2021年7月3日(土)13時から17時50分 http://www.scj.go.jp/ja/event/2021/308-s-0703.html
- 当面の活動(予定)
 - 学術会議における審議や取り組みの交流と連携の促進
 - 学協会などとの交流・連携の促進
 - これらの取り組みを通じて、科学的助言の発出や社会への発信などの今後の取り組みを検 討

5

【参考資料】

COVID-19 に関連する審議等を行っている(関心を有する)委員会、分科会等の代表者からなる「連絡会議」を設置します

「連絡会議」の設置により、COVID-19に関連する委員会、分科会等の連絡を図り、効果的な審議と分野 横断的な議論を促進します。現在のCOVID-19への対応の検討とともに「パンデミックに耐えられるレジ リエントな社会」を視野に入れた議論も展開します。

◎連絡会議における当面の審議事項(案)

- ① 大規模感染症(パンデミック)、特に新型コロナウイルス感染症に関する課題抽出
- ② 抽出された課題についての部をまたぐ横断的審議の促進(審議体制の提案)
- ③ 学術会議からの適切な情報発信、シンポジウム企画、 関連する学協会との連携、国際協力に関すること

◎審議課題の例

- 緊急時を含む臨床研究のあり方
- ワクチンを含む治療薬開発のあり方
- 緊急時を含む臨床データ収集のシステム
- デジタル医療
- コロナ禍で起こっている分断と格差

今後開催する 新型コロナウイルス感染症 関連公開講演会 (http://www.scj.go.jp/about_ covid19.html)







②課題別委員会の新規設置

会長、幹事会が主導した課題設定、横断的審議の最初の事例として、近年特に国際的な競争力の低下が懸念される我が国の研究力と、政府内で法規制のあり方を含めた適切な制度的枠組みの検討の動きがあるヒトゲノム編集技術という、2つのテーマを取り上げて、新たな課題別委員会を新設。

〇我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会(6月24日設置)

【検討事項】

研究力後退の原因究明と、低落を続ける日本の研究力回復を早期に実現するため、様々な学術政策がどのように研究力に影響を与えたかについて、長期にわたる客観的事実に基づいた解析を行い、その成果を今後の科学技術政策に反映させるための提案を行うこと等を目的とする。具体的には、「現在」から30年程度を遡って様々な政策の影響を科学的根拠に基づき解析することにより、全ての学術領域に共通する問題を俯瞰的視点で整理するとともに学術全体にわたる課題を抽出して研究力低下の原因を探り、効果的な政策について検討

〇ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研究・臨床応用に関する委員会(7月29日設置)

【検討事項】

ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研究・臨床応用に関連する諸問題を、国内外の学 術団体、政府機関、国際機関と連携して審議

課題別委員会の設置状況

		委員会名	設置時期	委員数	実績
		XXX I	17 E-17/1	2731	人们来
	1	防災減災学術連携委員会	令和2年10月2日	23名	40
	2	人口縮小社会における問題解決のための検討 委員会	令和2年10月3日	19名	2□
3		フューチャー・アースの推進と連携に関する 委員会	令和2年10月29日	26名	6回
	4	オープンサイエンスを推進するデータ基盤と その利活用に関する検討委員会	令和2年11月26日	23名	40
	5	自動運転の社会実装と次世代モビリティによ る社会デザイン検討委員会	令和2年12月24日	28名	40
	6	学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検 討委員会	令和3年1月28日	14名	2□
	7	大学教育の分野別質保証委員会	令和3年3月25日	16名	0回
	8	我が国の学術の発展・研究力強化に関する検 討委員会	令和3年6月24日	17名	2回
	9	ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研 究・臨床応用に関する委員会	令和3年7月29日	11名	10
					24

【参考資料】

「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」の活動

【活動方針】

(1) これまでの論点を整理:様々な出版、解析結果(原因説)、各省庁の審議会・検討部会、CSTIなどの審議まとめ、報告書や審議内容、結論(日本学術会議が発出した提言等を含む)を集積して解析

→ 専門家を集めた学術フォーラムを開催

- (2) 科学者と学術コミュニティに対する大規模アンケート 調査の実施:科学者/コミュニティの現状認識、何が原 因か?今後はどうすべきと考えるか?など意見を問う
- (3) **最新の科学的手法による解析**:総論文数やTop1%論文のトレンドなどを結果として、相互に関連しているファクタから独立した説明変数やそれらの相関について誰もが納得できる科学的な解析を行い、何が原因だったのかを明確化



- (4) **聞き取り調査の実施**: 関連省庁や研究資金配分機関、 大学・研究所等が国際競争力の低下についてどう考え てどのよう施策をとってきたのか、それらに関する反 省点を問う。できれば産業界からの意見も集約
- (5) 有効な今後の施策提案



政府に対する勧告



伊神正賞(前掲)、指岐さや香(前掲)、川合真紀(前掲)、豊田長康(前掲)、林陰之(前掲)

山口 用(前期) 西山慶彦(第一部会員、京都大学程清研究所教授)

【参考資料】

「ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研究・臨床応用に関する委員会」の活動

1. 設置趣旨

変化の激しい技術の動向を把握しつつ、国内外の学術団体、政府機関、 国際機関と連携しながら審議を進める必要があることから、令和3年7月、 ゲノム編集技術を用いたヒト胚等の基礎研究および臨床応用に関する以下の 審議を行うことを目的として設置

- ゲノム編集技術を用いたヒト胚等の基礎研究のあり方
- ゲノム編集技術を用いた体細胞やヒト胚等への臨床応用のあり方
- 国内外におけるゲノム編集技術のガバナンス形成のあり方

2. 役員及び委員構成

役員:委員長 加藤和人、副委員長 髙山佳奈子、幹事 武田洋幸・阿久津英憲委員構成:第一部会員2名、第二部会員2名、連携会員7名の計11名

3. 開催実績

令和3年11月6日(土)にオンラインで第1回委員会を開催、役員を 選出し、委員会の進め方を審議

「防災減災学術連携委員会」での取組事例~外部との対話~

第3回 防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会

~激化する気象災害への備え~

- 令和3年8月3日、防災減災学術連携委員会(委員長:米田雅子会員(第三部) において実施
- ・災害への備えを進める取組の一環として府省との連携強化を図るため、24期から継続的に実施※第1回(平成30年6月)、第2回(令和元年6月)、昨年はコロナにより中止

開催概要

- ・米田委員長より趣旨説明
- 榊 真一 内閣府防災担当政策統括官より御挨拶 (概要)
- ・このような機会に学術関係者と政策の意図を共有することにより、この分野の研究の進展を期待。学会から説明いただく最新の研究についても、今後の政策に活かしたい。

〇府省庁からの政策説明

本年成立した災害対策基本法、流域治水関連法の法令改正の内容等を説明

•省庁説明者

国土交通省(水管理·国土保全局河川計画課課長、都市局都市計画課課長) 内閣府(政策統括官(防災担当)付参事官(避難生活担当)、参事官(調查·企画 担当)付企画官

〇学会の活動発表

日本気象学会、土木学会、日本都市計画学会、日本災害医学会の4学会から 研究活動を発表

〇全体意見交換



激化する気象災害への備え

日時 2021年8月3日(火) 13:00~16:00

〇開催後、学協会の方から「最新の政策を詳細に伺うことができて、 大変に勉強になった」という声が多く寄せられた

〇来年は対面形式での実施を目指す

③査読体制の抜本的見直し

- 〇現在検討を進めている「科学的助言機能・『提言』等の在り方の見直し」に関する 総会の結論を受けて、査読の進め方の見直しを実施予定。
- 〇具体的には、従来「科学と社会委員会」の下に設置されていた「課題別審議等査読 分科会」(今期委員未決定)の組織、構成、役割、事務局体制を含めて抜本的な改組 を行う方針。

第24期科学と社会委員会

第25期科学と社会委員会

1. 科学と社会企画分科会

2. 年次報告検討分科会

統合

2. 政府・産業界・市民との連携 強化分科会(新規)

1. 科学と社会企画分科会(継続)

3. 市民と科学の対話分科会

3. 年次報告検討分科会(継続)

4. 政府•産業界連携分科会

5. メディア懇談分科会 □

広報委員会に機能を統合

6. 課題別審議等査読分科会 ■

査読範囲、所属を含めて改組を検討

33

対話を通じた情報発信力の強化

〇4月までに、外部との窓口に一元化(科学と社会委員会「政府・産業界・市民との連携強化分科会」の設置)、広報機能の一元化(広報委員会「国内外情報発信強化分科会」の設置)等の組織整備を実施。

〇令和3年10月に、メディア出身者を広報担当の学術会議アドバイザー(会長補佐)として委嘱し、広報戦略の強化を推進。

【取組の進捗状況】

具体的な取組事項	進捗状況			
産業界、専門職団体等との連携	政府・産業界・市民との連携強化分科会において、産業界との対話のテーマや、外部との意見交換におけるガイドラインを検討			
国民との対話、学術フォーラム・公開シンポジウム等 の動画配信の推進	学術フォーラムのオンライン開催・動画配信を開始			
記者懇談会の定例化	毎月の幹事会終了後の記者会見を定例化			
学術会議の活動について、 国民への情報発信	「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」(第182回総会決定)Q&Aの作成 学術会議外の広報業務関係者を学術会議アドバイザー(広報担当)として委嘱 ノーベル物理学賞受賞についての会長談話の発出、記者会見の実施及び会長メッセージの動画作成 ISC役員選挙について、会長談話の発出、記者会見の実施			

具体的な取組み

「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」Q&Aの作成(令和3年8月)



日本学術会議会長談話「第25期日本学術 会議発足1年にあたって(所感)」の動 画掲載(令和3年9月30日)



学術会議アドバイザー(広報担当)の委嘱(令和3年10月)

- ・眞鍋叔郎先生によるノーベル物理学賞を祝した梶田会長メッセージ及びインタビュー動画作成(令和3年10月)
- ・梶田会長と日本医学会連合・門田会長の新型コロナに関する対談動画作成(令和3年11月)







新型コロナウイルス感染症に対する 学術の取り組みと課題

今後、アドバイザーのノウハウを活用した広報戦略の企画・コーディネート、広報用コンテンツ制作を推進。

7/

4. 情報関係の体制強化

	実施項目	内容
1	庁舎内のネットワーク再構築・ Wifiの充実	すべての会議室・執務室に有線LAN・無線wifiを設置し、オンライン開催が可能に。
2	SINET(学術情報ネットワーク)への接続	日本全国の大学、研究機関等の学術情報基盤として、国立情報学研究所が構築、運用中の情報ネットワーク。大学・研究機関の種々の資源にアクセスでき、学術会議内での委員会の御審議や提言作成の際に利用可能に。 ・安定的な高速ネットワークの利用により、総会などの多人数が参加するオンライン会議等の円滑な開催が可能に。
3	eduroam(国際学術無線LAN ローミング基盤)の導入	会員・連携会員が本務のIDにより日学無線LANシステムにアクセス可能に。
4	Zoom会議、Zoomウェビナー の導入	オンライン会議、オンラインシンポジウム等の開催がよりスムーズに。
5	クラウド・コンテンツ・マネジ メントBOXの導入	委員会等で蓄積したデータを会員連携会員等で相互に利活用可能に。 ・会員同士でのスムーズな文書ファイルの共同編集や動画の共有などが可能に。
6	オンライン対応機材の導入	講堂機器やPCの入替え、シンポジウム等オンライン配信機材を導入 ・高性能Webカメラを導入し、クリアで見やすい映像配信が可能に。 ・配信用専用PCを用意し、多彩な映像表現が可能に。
7	情報関係のスタッフの充実化	・上席学術調査員の配置・情報対応職員(常駐)の配置・オンライン配信スタッフ(非常駐)の配置
8	会議の文字起こしクラウド A I GIJIROKUの導入	・会議音声などのテキストデータ変換が出来るクラウドサービス、AI GIJIROKUを導入、議事録作成の迅速化と作業の軽減が可能に。
9	Youtubeの活用	・学術フォーラム等の情報発信時、一般の利用者の多いインターネットサービスを利用することにより、国民が参加しやすい情報発信が可能に。
10	必要経費の予算措置	・上記各項目の実施・運用のため、令和4年度予算に必要経費を概算要求。

日本学術会議 国際活動報告



2021年12月 第25期 国際活動担当副会長 髙村ゆかり



第25期の活動方針

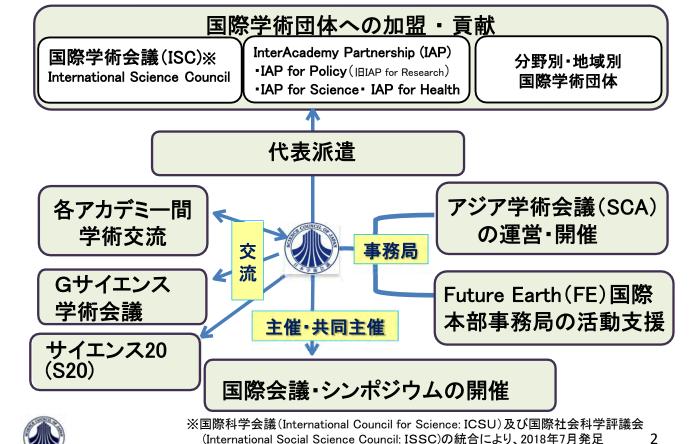
日本学術会議のより良い役割発揮に向けた検討を踏まえ、 国際活動のさらなる発展を目指す

- 1. 地球規模課題等への対応について、各国アカデミーや国際 学術団体等との交流や連携強化
 - ✓ 国際学術会議(ISC)への積極的参画や、IAP等加入国際 学術団体等に対するより一層の貢献
 - ✓ Gサイエンス学術会議やサイエンス20(S20)等における 各国アカデミーとの連携強化
 - ✓ 次世代科学者の参加機会の創出・拡大
- 2. アジア地域におけるリーダーシップの発揮
 - ✓ アジア学術会議(SCA)の運営・開催等
- 3. 国内外に向けた情報発信の強化



✓ 日本学術会議の国際活動、その成果のわかりやすい発信 1

国際活動の全体像



個別の報告内容

- 1. 各国アカデミーとの連携・交流(①S20・SSH20 / ②SSH7/
 ③APM会合/④国際人権ネットワーク)
- 2. 加入国際学術団体等への貢献(①代表派遣/②ISC/③IAP)
- 3. 国際学術会議の共同主催及び後援
- 4. 国際学術会議の主催(持続会議)
- 5. アジア学術会議(SCA)の運営
- 6. フューチャー・アースの国際的展開
- 7. 国内外への情報発信



1. 各国アカデミーとの連携・交流①

サイエンス20(S20) 及びソーシャルサイエンス アンド ヒューマニティーズ20(SSH20)2021への対応

G20参加各国の政府首脳に対する科学的及び人文社会 科学的観点からの政策提言

- ✓ イタリア・リンチェイ国立アカデミーが2021年9月22,23日にハイブリット形式で開催
- ✓ 例年のS20に加え、人文社会科学分野についてSSH20を初開催
- ✓ 会議テーマ
 - S20) Pandemic preparedness and the role of science

(パンデミックの備えと科学の役割(仮訳))

SSH20) Crises: economy, society, law, and culture

Towards a less vulnerable humankind —



(危機:経済、法及び文化~より脆弱でない人類をめざして(仮訳))

- ✓ 2021年7月15日に事前会合として、アカデミー会長会合をオンラインで開催
- ✓ 共同声明を公表、10月に開催されたG20サミットに向けて主催 国の首脳、関係閣僚等へ提出
- ✓ 関係省庁に声明を送付
- ✓ 本体会合には国際活動担当副会長及び複数のテーマ専門家が参画
- ✓ 日学からの協力専門家

S 20 : 秋葉澄伯連携会員、郡山千早連携会員

SSH20:城山英明連携会員、溝端佐登史第一部会員、

河野俊行連携会員、諸富徹連携会員

<u>次回サイエンス2</u>0(S20)2022

■ インドネシアにて開催予定



1. 各国アカデミーとの連携・交流②

- Social Sciences and Humanities (SSH7)
- ✓ 2021年11月16日、英国学士院(The British Academy)主催の下、 先進7か国の人文社会科学を代表するアカデミーが以下の共同声明 を取りまとめ・公表
- ✓ 日本学術会議からは、会長、国際担当副会長、橋本伸也第一部会員、 溝端佐登史第一部会員、小林傳司第一部会員、日比谷潤子第一部会員、以下各分野の専門家がメールによる意見交換に参加
 - (1) Community Engagement (コミュニティ・エンゲージメント)
 - :佐藤嘉倫第一部会員
 - (2) Education, Skill & Employment(教育、技能、雇用)
 - :有田伸第一部会員、岡部美香第一部会員
 - (3) Trust, Transparency & Data Gathering(信頼性・透明性のあるデータ収集)
 - :西山慶彦第一部会員、宇南山卓連携会員
 - (4) Inequalities & Cohesion(格差と結束): 白波瀬佐和子第一部会員

(5) Fiscal Policy(財政政策):宇南山卓連携会員、諸富徹連携会員

6

1. 各国アカデミーとの連携・交流③

- 第14回 Academy of Science Presidents' Meeting
 - ✓ STSフォーラム(科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム)第18 回年次総会の分野別会議として、日本学術会議が主催(2021年10月4日)
 - ✓ テーマ: The Effects of Climate Change on the Ocean and the Polar Regions (海洋および極地への気候変動の影響)
 - ✓ 概 要: 26のアカデミー/機関の代表者が参加
 - ・ドイツ・レオポルディーナ会長と日本学術会議会長が 共同議長
 - ・レポートセッションでは、国際担当副会長の進行の下、 10のアカデミー/機関の代表者が活動を報告し議論
 - 日本学術会議からは榎本浩之特任連携会員が発表
 - (Gサイエンス学術会議(2022)を見据えたテーマに基づき議論

1. 各国アカデミーとの連携・交流④

- 国際人権ネットワーク(IHRN:International Human Rights Network)への対応
- ✓ 米国の全米科学アカデミー(NAS: National Academy of Sciences)
 傘下の国際組織
- ✓ IHRN配布のアクションアラートに対して、「国際委員会 科学者に 関する国際人権対応分科会」において嘆願書発出の要否を審議 (25期 審議中の案件数:10件)
- ✓ 24期で改定された新基準「科学者等に関する国際的な人権問題 の審査基準」に基づき審議中



8

2. 加入国際学術団体等への貢献①

- 代表派遣
- ✓ 加入する44の国際学術団体等に対し、日本学術会議から代表者を派遣、ナショナル・アカデミーとして活動
- ✓ 国際学術団体における国際基準制定の議論に参画することで、 日本の学術の国際基準への反映に貢献
- ✓ ※新元素113番の命名権の獲得(ニホニウムと命名)やGSSP(国際境界摸式層断面とポイント) への千葉セクション(チバニアン)の承認にもつながる
- ✓ 代表派遣計画(2021年度)の実施状況
 - ・37件58人の派遣を決定(総会・理事会等19件、その他会議 18件)オンラインでの派遣を実施中
 - ※新型コロナウイルス感染症の影響で当初計画の中止等あり
- ✓ 代表派遣計画(2022年度)について募集中
 - ・各委員会委員長を通じて募集(2022年1月6日締切)
- ・国際委員会で審議の上、2月に実施計画策定

2. 加入国際学術団体等への貢献②

- 国際学術会議 (ISC) への参画
- ✓ ISC総会:会長、国際担当副会長等が出席(2021年10月11日~15日 オンライン)
 - ・小谷元子連携会員が次期会長に、白波瀬佐和子会員が財務担 当副会長に選出
- ✓ ISC常設委員会「科学における自由と責任の委員会」

(CFRS: Committee for Freedom and Responsibility in Science)

- 白波瀬佐和子第一部会員が参加(任期:2019年7月~2022年6月)
- ✓ ISC共催プロジェクト「都市環境の変化と健康委員会」

(UHWC: Urban Health and Wellbeing Committee)

- 中村桂子連携会員が参加(任期2020年6月~)



10

2. 加入国際学術団体等への貢献③

- IAP (InterAcademy Partnership)への参画
- ✓ IAP for Policyへの参画
 - ・日本学術会議は理事アカデミーとして参画(任期 2017年~2022年 ※2019年度の定款改正で2020年から延長)
 - 理事会(Board Meeting)に国際担当副会長がオンライン出席 (2021年6月、11月)
- ✓ IAP年次会合(Annual Joint Meeting)に参加(2021年10月)
- ✓ IAP for Policy IAP for Science IAP for Healthは2022年に統合予定
- ✓ IAP声明作成のためのワーキンググループへの日本学術会議からの 専門家派遣や声明に対する支持表明
 - ・2021年6月 The Implication of Urbanization in Low and Middle Income Countries(低・中所得国における都市化の影響): 岡部明子元連携会員
 - -2021年9月 Climate Change and Biodiversity(気候変動と生物多様



性):橋本禅連携会員

3. 国際学術会議の共同主催及び後援

• 共同主催国際会議の主催

- ✓ 「国際計測連合第23回世界大会(8月@オンライン)」を始め、 6件の会議をオンライン(3件)、ハイブリット(3件)で開催
- ✓「第17回世界地震工学会議(9月@仙台)」では天皇皇后両 陛下にオンラインで御臨席いただき、天皇陛下よりお言葉 を賜った。
- ✓ 「第27回マグネット技術国際会議11月@福岡」では秋篠宮皇 嗣殿下よりおことばをビデオメッセージで賜った。

• 国際学術会議の後援

✓ 国際学術会議(STSフォーラム)について後援を決定



12

4. 国際学術会議の主催

- 「持続可能な社会のための科学と技術に関 する国際会議2021」
- ✓ テーマ: ネットゼロ・エミッション―達成に向けた学術の役割―(仮)
- ✓ 日 程: 2022年1月31日、2月1日(オンライン開催)
- ✓ 概 要:
 - 「アジアでのネットゼロ・エミッション(仮)」と、「気候変動をめぐる シナジーとトレードオフ(仮)」のサブ・テーマによる発表とディ スカッションを予定
 - 現在、持続会議2021分科会委員長の亀山康子連携会員が中心となり、分科会において企画、実施準備中
 - ・プログラム等の詳細は、今後ニュースメール等でお知らせ





- ✓ 日本学術会議が事務局を務め(事務局長:澁澤栄連携会員)、 18か国・地域の32機関が加盟。毎年度、各国持ち回りで会議を開催
- ✓ 2021年は、5月13日~15日、中国・広州現地及びオンラインのハイブ リット方式により、テーマ「The Age of New Materials: Innovation for Sustainable Society(ニューマテリアルの時代:持続可能な社会のため のイノベーション)」の下、第20回アジア学術会議を開催
- ✓ 会長、国際担当副会長、澁澤栄連携会員、白波瀬佐和子第一部会員、 石原一彦連携会員、伊藤耕三連携会員、寺崎一郎連携会員、 鶴見敬章連携会員、髙山弘太郎第二部会員、岡部徹連携会員、 細野秀雄連携会員、佐々木一成連携会員、山内美穂連携会員 がオンラインで参加
- ✓ 日本学術会議からの推薦者として、K Sudesh KUMAR Universiti Sains Malaysia教授、白波瀬佐和子第一部会員が基調講演
- 2022年は、3月15日~17日、インド及びオンラインのハイブリット方式 で開催予定 14

6. フューチャー・アースの国際的展開

日本学術会議は、2021年9月のフューチャー・アース総会から 新たに発足した国際本部事務局(8か国・地域にて構成)の一 翼である日本セクレタリアットハブ事務局の推進役となった。

- ✓ 新たなフューチャー・アース事務局体制の発足
 - 日本は、グローバル・セクレタリアット・ハブに選出され、 新たに発足した国際本部事務局の一翼となった(国際本部 事務局はアメリカ、カナダ、フランス、スウェーデン、日本、 中国、台湾、インドの8か国・地域で構成)
 - 日本学術会議は日本セクレタリアット・ハブ事務局に共同参画 し、活動を推進
- ✓ 9月29~30日に行われたフューチャー・アース総会で、「フュー チャー・アース評議会」のメンバーとして髙村国際活動担当副 会長及び沖大幹第三部会員が選出された。 15

7. 国内外への情報発信

- ✓ 国際委員会と加入国際学術団体国内対応委員会との連携強化、 国内外に発信すべき情報の共有
- ✓ 加入国際学術団体の活動やその成果を、国民に分かりやすく 情報発信
 - 各国内対応分科会委員長等との意見交換会を実施(2021年 8月)
 - 国際学術団体の概要や活動成果をパワーポイントにまとめ HPに掲載
 - 国際学術団体調査票の記載事項を見直し、25期の見直し調査を実施
 - 本年2月開催の学術フォーラム「新たな地球観への挑戦 地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献—」はモデルとなる事例



16

第一部報告 第183回総会 2021年12月2-3日 第一部役員 部長:橋本伸也 副部長:溝端佐登史 幹事:小林傳司 幹事:日比谷潤子

第一部の組織 分野別委員会(10)・分科会(79)

分野別委員会	分科会数
言語・文学委員会	4
哲学委員会	5
心理学・教育学委員会	13
社会学委員会	9
史学委員会	10
地域研究委員会	9
法学委員会	9
政治学委員会	5
経済学委員会	6
経営学委員会	5
第一部直接統括	4

第一部の運営体制

- 部会:年3回を予定
- 役員打ち合わせ: 随時
- 拡大役員会: 部会の間に1-2回、必要に応じて開催(部役員+分野別委員長)
- 第一部が直接統括する分科会
 - ①国際協力分科会
 - ②人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会
 - ③人文・社会科学基礎データ分科会
 - ④総合ジェンダー分科会

第25期の方針(第二回部会「4月21-22日」で確認)

- ① 会員任命問題の解決をめざして四役、幹事会、第二部、第三部との強固な連携のもとで粘り強い働きかけを継続します。
- ② 改正科学技術・イノベーション基本法、第6期基本計画のもとでの人文・社会科学の振興策についての審議・具体化を進めます。
- ③ 「日本学術会議のより良い役割発揮」をめぐる議論について、 部の特性を生かしながら積極的に参画します。
- ④ 部における分野別委員会・分科会体制及び科学的助言活動の あり方についての検討を進めます。

前回総会以降の活動(骨子)

- 会員任命問題への取り組み:部役員が幹事会等において必要な取り 組みに参画
- ・改正科技・イノベ法下での人文・社会科学振興策についての議論→ 拡大役員会、人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会で検 討
- 科学的助言のあり方についての取組み:夏季部会(8月10日)における有本建男先生講演「世界のアカデミーが目指す科学的助言について」→第二部・第三部でも視聴
- 分野別委員会合同分科会の設置による広い視野に立った分野横断的 審議活動のための体制構築の準備
- 人文・社会科学分野の国際活動の新たな展開
- 多彩なシンポジウムの開催(5-11月に14件、『年次報告書』参照)

改正科学技術・イノベ法のもとでの人文・社会科学振興

- 法改正(令和3年4月1日施行)、第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定)
- 人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会での検討

✔令和2年12月25日 改正法・第6期基本計画についての検討(報告:小林第一部幹事)

✓令和3年3月6日 「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」に関する検討(講演:堂目卓生大阪大学大学院経済学研究科教授)

✓令和3年9月13日 NISTEP調査結果から見る人文・社会科学の現状及び基本計画・戦略2021などに関わる文部科学省の政策についての検討(講演:伊神

正貫 (NISTEP科学技術予測・政策基盤調査研究センター長、河村

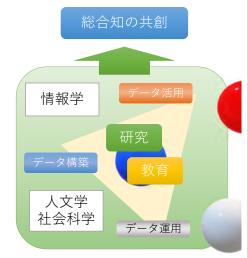
雅之文科省研究振興局振興企画課学術企画室長)

✓令和3年11月22日 EUにおける人文・社会科学連携プログラムについての検討(講演

:山村将博JST研究開発戦略センター海外動向ユニットフェロー、 山本里枝子(第三部会員、同センター企画運営室フェロー)

デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会

- 目的
 - ✓デジタル時代における人文・社会科学の研究を情報学との連携(心理学・教育学/言語・文学/哲学/社会学/史学/地域研究/情報学委員会が参画)により批判的かつ建設的に横断して検討を行い、総合知を実現し得るデジタル時代の学知の在り方を明らかにする
- これまでの取り組み
 - ✓分科会の開催
 - データ駆動型人文・社会科学/Digital Human Twin/総合知
 - 歴史的・通時的シミュレータとしてのデジタル
 - デジタル時代の日本語学
 - 現代語コーパス/通時コーパス/方言コーパス
 - デジタル時代の日本文化社会研究:古代から現代まで
 - ・ デジタルと日本史学/デジタルと社会科学✓シンポジウム開催 (1月予定)
 - 研究データの構築のための国際標準と課題
 - 多様なコンテクストからのデータの構築
 - 総合知へ向けた人文社会科学基盤の形成へ



人文・社会科学分野の国際活動の新たな展開①

- SSH20声明策定(8月6日公開、イタリア・イタリア・リンツェイ国 立アカデミー)
 - ✓ Pandemic preparedness and the role of science
 - ✓ Crises: economy, society, law, and culture Towards a less vulnerable humankind

(城山英明、河野俊行、諸富徹の各連携会員が執筆協力)

- 日本アセアンセンター【ASEAN創立54周年記念シンポジウム】 「『ニューノーマル』におけるASEANの経済的および社会的地域統 合 (8月27日)
 - ✓高村副会長がパネル報告
- S20+SSH20 Academic Summit (9月22-23日)
 - ✓SSHセッションで溝端副部長講演 "Challenges against COVID19 Crises"

人文・社会科学分野の国際活動の新たな展開②

- ISC総会で白波瀬佐和子第一部会員が財務担当副会長に選出 (10月 14日)
- 24th AASSREC(アジア社会科学研究協議会連盟), Biennial Conference(10月26-28日) "Navigating the future during and after Covid-19 The role of social sciences in Asia"
 - ✓山田礼子連携会員講演 "Can Higher Education Institutions Cultivate Global Competences in the Era of COVID-19"
- SSH7声明策定(11月16日公開、ブリテッシュ・アカデミー)
 - ✓ Community engagement
 - ✓ Education, skills and employment
 - ✓ Trust, transparency and data gathering
 - ✓ Inequalities and cohesion
 - ✓ Fiscal policy and recovery

(佐藤嘉倫、有田伸、岡部美香、西山慶彦、白波瀬佐和子の各会員、宇南山卓、 諸富徹両連携会員が執筆協力)

第二部活動報告

(令和3(2021)年4月~11月)

組織及び活動の概要

第二部は現会員70名、下記の10委員会のもとに96分科会(環境学委員会分科会を含む。環境学委員会は融合領域分野として第一部、第三部と共に設置)が設けられており、各分野に特徴ある活発な活動を展開している。部会は10月、4月の総会時および夏季の計3回開催され、役員会は幹事会の開催日に合わせて行われており、部の運営方針を決定している。

部長:武田洋幸 副部長:丹下	健 幹事:尾崎紀夫、神田王	
分野別委員会	委員長	分科会数 96(計94+2*)
基礎生物学委員会	小林 武彦	15
統合生物学委員会	北島 薫	7
農学委員会	仁科 弘重	14
食料科学委員会	古谷 研	9
基礎医学委員会	松田 道行	11
臨床医学委員会	名越 澄子	14
健康·生活科学委員会	小松 浩子	8
歯学委員会	市川 哲雄	3
薬学委員会	山崎 真巳	7
環境学委員会	浅見 真理	6

※また、第二部が直接統括する分科会として以下を設置(いずれも前期からの継続)。

- ○第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会(委員長:熊谷 日登美)
- 〇第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会(委員長:秋葉 澄伯)

第二部会、第二部拡大役員会の開催

第二部部会(夏季):

第3回(令和3年8月19日)

議題等:

https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/2bu/pdf25/2bu-sidai2503.pdf

第二部拡大役員会(第二部役員十分野別委員会委員長):

第2回(令和3年7月2日)

議題等:

https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/2bu/pdf25/2bukakudai-sidai2502.pdf

第二部が直接統括する分科会 #1

◆ 第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会

- 設置目的:生命科学分野の大学・研究機関・学協会におけるジェンダー・ダイバーシティに関わる現状を把握し、女性研究者や外国人の研究者が活躍できるようにするにはどうすれば良いかについて検討を行う。
- 審議事項:
 - 1. 生命科学分野の大学・研究機関・学協会における女性活躍推進のための方策の検討
 - 2. 生命科学分野におけるダイバーシティー推進に向けた方策に係る審議に関すること
- 第2回分科会(令和3年6月4日)、第3回分科会(令和3年10月28日)第25期の活動として、公開シンポジウム(大学、学協会、企業の取り組み紹介等)の開催計画について議論された。
- 連続公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」
 第1回「大学における女性リーダーから見た課題と展望」 令和3年10月28日 オンライン開催
 第2回「大学・企業・学協会におけるダイバーシティ推進に向けた取り組み」 令和3年12月19日 オンライン開催予定

1

第二部が直接統括する分科会 #2

◆ 第二部大規模感染症予防·制圧体制検討分科会

- 設置目的:大規模感染症等を予防・制圧するために必要な体制の整備等についての現実的な提言に向けた検討を行う
- 審議事項:国民の健康・福祉の脅威となりうる感染症に関して以下の検討を行う
 - 1. 過去および将来の感染症流行による公衆衛生上の危機の検討
 - 2. 感染症流行予防に必要な組織とその連携
 - 3. 国民の健康・福祉の脅威となりうる感染症流行に迅速・適切に対応するために必要な組織との連携
 - 4. 感染症を制圧するために必要な組織とその連携
 - 5. 感染症予防・制圧体制に必要な国際連携と協働
 - 6. その他、第二部幹事会が必要と考える感染症流行に関する事項に係る審議に関すること
- これまでに12回の分科会を開催 (令和2年 11/18, 12/17, 令和3年 1/19, 2/24, 3/30, 4/20, 5/18, 6/15, 7/16, 8/23, 9/28, 10/19) 新型コロナウイルス感染症対策の現場で活動されている方々等に講演していただき、議論を進めている。

関連学協会との連携

- 第25期会員任命問題に対して内閣総理大臣あてに提出した「第25期新規会員任命に関する要望書」(令和2年10月3日)に対して、第二部関連の学協会を含め多くの学協会やその連合体が賛同の意思表明をされた。
- 学術会議幹事会は、記者会見を毎月開催して社会に対して情報発信するとともに、会員・連携会員や協力学術研究団体に記者会見内容をメール配信してきた。第二部では、学協会連合体に対して記者会見内容の通知を行ってきた。

第二部が連携している学協会連合

生物科学学会連合、脳科学関連学会連合、一般社団法人日本農学会、公益財団法人農学会、日本医学会連合、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会、一般社団法人日本歯科医学会連合、日本薬学会

● 第二部が中心となって新型コロナウイルス感染症に関する学術フォーラムをシリーズで開催することを第二部役員会で 決定し、そのうちの2回を日本医学会連合と共同で開催した。

新型コロナウイルス感染症の最前線 -what is known and unknown #1

「新型コロナウイルスワクチンと感染メカニズム」 令和 3年5月8日(土) オンライン開催(視聴者数980;再生数1,842)

新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown#2 「新型コロナウイルス感染症の臨床的課題、対策と今後の方向性: 臨床の現場を知り、何をすべきか一緒に考えましょう。」 令和 3年9月18日(土) オンライン開催(視聴者491;再生数11,580)

● 緊急デルタ株の蔓延などから新型コロナウイルス感染症の流行が全国で急拡大した9月に、日本学術会議緊急フォーラム「新型コロナウイルス感染症の災害級流行急拡大への対応」を第二部と日本医学会連合が共同で開催した。 令和3年9月11日(土) オンライン開催(視聴者435:再生数4,446)

シンポジウム等(開催済) #1 (令和3年4月~11月)

第二部においては、令和3年4月から令和3年11月の期間中、25件の公開シンポジウム等を開催した。

開催日	名 称	開催場所	委員会·分科会
令和3年「くすりのコ 4月24日(土)	Cキスパートが語る"よくわかる新型コロナウイルスワクチン"」	オンライン開催	医療系薬学分科会、地域共生社会における薬 剤師職能分科会、化学・物理系薬学分科会
5月8日(土)「SDGsに	おける繁殖生物学の役割」	オンライン開催	畜産学分科会
	ナウイルス感染症の最前線 -what is known and unknown #1 ロロナウイルスワクチンと感染メカニズム」	オンライン開催	日本学術会議
5月23日(日)「With/Af	terコロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」	オンライン開催	少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会 老化分科会、看護学分科会、社会福祉学分科 会
6月20日(日) 「脳とここ? 6月27日(日) 「脳とここ?	5から見たWith/Postコロナ時代のニューノーマルの課題と展望」	オンライン開催	脳とこころ分科会、脳と意識分科会、健康・医療と心理学分科会、大規模感染症予防・制圧体制検討分科会、神経科学分科会、アディクション分科会、少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会、情報学委員会
6月26日(土)「インセクト	-ワールド―多様な昆虫の世界Ⅱ―」	オンライン開催	応用昆虫学分科会
6月29日(火)「新型コロ	ナウィルス感染症対策の現状と今後-歯科からの発信-」	オンライン開催	歯学委員会、臨床系歯学分科会

シンポジウム等(開催済) #2 (令和3年4月~11月)

7月3日(土)「コロナ下において考えるべき栄養」	オンライン開催	IUNS分科会
7月17日(土)「新型コロナワクチンを正しく知る」	オンライン開催	日本学術会議第二部
8月20日(金) 「第12回形態科学シンポジウム: 生命科学の魅力を語る高校生のための集 い〜分子と細胞を観る楽しさ〜」	オンライン開催	細胞生物学分科会、形態·細胞生物医科学分科会
8月21日(土)「東京-Evo-リンピック ~驚くべき性質や能力をもつ生き物たち」	オンライン開催	進化学分科会
8月28日(土)「ポストコロナ社会を見据えた睡眠・生活リズムのあり方:コロナ自粛から学 ぶ」	オンライン開催	生物リズム分科会
9月11日(土) ^{「新型コロナウイルス感染症の災害級流行急拡大への対応」}	オンライン開催	日本学術会議第二部
9月14日(火)「食を通して全ての人に健康を」	オンライン開催	農芸化学分科会
新型コロナウイルス感染症の最前線 -what is known and unknown#2 「新型コロナウイルス感染症の臨床的課題、対策と今後の方向性:臨床の 現場を知り、何をすべきか 一緒に考えましょう。」	⁾ オンライン開催	日本学術会議
9月25日(土)「WITH/AFTERコロナ時代の看護とデジタルトランスフォーメーション」	オンライン開催	看護学分科会、少子高齢社会におけるケ アサイエンス分科会

2

シンポジウム等(開催済) #2 (令和3年4月~11月)

10月16日(土)「健康栄養教育を担う管理栄養士の役割」	オンライン開催	家政学分科会
コロナ禍を共に生きる#3 10月23日(土) 「パンデミックに世界はどう立ち向かうのか〜国際連携の必然性と可能 性〜」	オンライン開催	日本学術会議
10月28日(木) 「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティー大学における女性 10月28日(木) リーダーから見た課題と展望ー」	オンライン開催	第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシ ティ分科会、科学者委員会男女共同参画 分科会
11月3日(水)「地域共生社会における薬剤師像を発信する」	オンライン開催	薬学委員会
11月5日(金)「進化・発生・メカニカルストレスから探る顎顔面形成・維持機構最先端」	Live配信	歯学委員会、臨床系歯学分科会
11月5日(金)「原発事故から10年ーこれまで・今・これからの農業現場を考える」	パルセいいざか(福島県福 島市、ハイブリッド開催)	土壤科学分科会、IUSS分科会
11月6日(土)「幼小児期・若年期からの生活習慣病予防」	オンライン開催(オンデマン ド方式 公開期間:11/6~ 11/30)	
11月12日(金)「フードシステムと養殖の未来」	オンライン開催	農芸化学分科会
11月20日(土)「住居領域における専門教育と資格教育のあり方」	オンライン開催	家政学分科会

コロナ対応WG・パンデミックと社会に関する連絡会議の活動について #1

◆ HPの改修 新型コロナウイルス感染症に関する情報発信の強化

○学術会議トップページに「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)特設ページ」へのバナーを設置(令和3年4月)



○特設ページにおいて、学術会議の新型コロナウイルス 感染症に関する最新の情報を集約し、わかりやすいように 紹介

- 新型コロナウイルス感染症関連情報トピックス
- 新型コロナウイルス感染症に関する公開講演会の情報
- 新型コロナウイルス感染症に関する審議状況
- ・日本学術会議のこれまでの取組



10

コロナ対応WG・パンデミックと社会に関する連絡会議の活動について #2

◆シリーズ企画「学術フォーラム コロナ禍を共に生きる」を企画・実施

- 学術フォーラム 新型コロナウイルス感染症の最前線 -what is known and unknown #1
 「新型コロナウイルスワクチンと感染メカニズム」
 令和3年5月8日(土)
- ・日本学術会議緊急フォーラム 「新型コロナウイルス感染症の災害級流行急拡大への対応」 令和3年9月11日(土)
- ・学術フォーラム 新型コロナウイルス感染症の最前線 -what is known and unknown#2 「新型コロナウイルス感染症の臨床的課題、対策と今後の方向性: 臨床の現場を知り、何をすべきか 一緒に考えましょう。」 令和3年9月18日(土)
- ・学術フォーラム コロナ禍を共に生きる#3 「パンデミックに世界はどう立ち向かうのか~国際連携の必然性と可能性~」 令和3年10月23日(土)

11

コロナ対応WG・パンデミックと社会に関する連絡会議の活動について #3



コロナ対応WG・パンデミックと社会に関する連絡会議の活動について #4

「パンデミックと社会の連絡会議」の設置の背景と趣旨

令和3年7月29日設置

COVID-19を巡る状況

- ワクチン接種が進む中、感染克服に期待が集まっているが、未だに終息の目処は立っていない
- 一方で、COVID-19の世界的流行は、現代社会が内包する問題点とポテンシャルを顕在化
- 特に、我が国においては、社会、学術の様々な問題点が露呈

日本学術会議では、多くの委員会、分科会がGOVID-19に関して議論し、情報発信してきた

- 大規模感染症予防・制圧体制検討分科会の設置(令和2年2月)
- 緊急課題を集中して検討するためコロナ対応ワーキンググループを設置(令和3年1月)
- 声明(2)、会長談話(1)、提言(2)、Gサイエンス共同声明(2)、サイエンス20共同声明(1)
- 日本学術会議内での審議状況の共有や情報発信の促進(学術フォーラムのシリーズ化、「学術の動向」特集号の企画、 COVID-19特設ページに情報を集約等)を実施 学術フォーラム、公開シンポジウムなど令和2年6月~令和3年7月までに31回開催

学術の諸科学の専門知を効果的に連携し、総合的、俯瞰的な検討を進めることは 日本学術会議の役割

- 現在のCOVID-19感染への対応に加えて、中長期的な視点でwith/postコロナにおける医療体制や社会の在り方について議論を 深め、政府や社会に貢献する
- その際、人文・社会科学、生命科学、理学・工学の各分野の科学者による横断的な審議が必要
- 緊急時だけでなく平時における社会や学術の問題点を点検・議論し、パンデミックに耐えられるレジリエントな社会制度を構築する ための検討が不可欠

第三部報告

令和3年4月~11月

第三部部会 (前回総会中)4/21,22 (夏季部会)8/18,19 第三部拡大役員会 5/27,*6/24,7/29,9/30,10/28,11/25 * 分野別委員会委員長も参加

部長吉村忍副部長米田雅子幹事沖大幹幹事北川尚美

1

1. 第三部における分野別委員会

	委員長	副委員長
環境学委員会* 数理学委員会物理学委員会 物理学委員会 地球 学委員会 化学委員会 化学委員会 機械工学委員会 機械工学委員会 社工学委員会 社工学委員会 社工学委員会	浅小野田相茶小大中小山見澤尻近澤谷山島野林口真徹美英清直ま義潔周理保一晴人耕り昭司理・子	池齋腰佐谷北玉金中田乾邊藤原竹口川田子川辺晴健倫尚薫真聡新行の時代の一川田子川辺晴がまままままままままままままままままままままままままままままままままままま

*第一部~第三部合同

11分野別委員会のもとに80分科会が設置され活動

1. 第三部の附置分科会

理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会 委員長 野尻 美保子 副委員長 伊藤 貴之

参考 第25期の第三部も深く関わる課題別委員会

「防災減災学術連携委員会」

「自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会」

「オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会」

「学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会」

「フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会」

「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」

3

2. 令和3年4月~令和3年11月の活動

(1) 第三部会での議論

- ①4月21日、22日
 - ○「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」について意見交換
 - ○夏季部会におけるシンポジウム開催案について説明及び意見交換
 - ○各分野別委員会からの活動報告
 - ○その他
- ②8月18日、19日
 - 〇日本学術会議の在り方に関する政策討議、科学的助言機能・「提言」等 のあり方の見直し、第三部「意思の表出」等について説明及び意見交換
 - ○研究力強化、カーボンニュートラルに関する検討状況の説明及び意見交換
 - ○学協会との連携について説明及び意見交換
 - ○その他

2. 令和3年4月~令和3年11月の活動

- (2) 拡大役員会での議論(5/27, *6/24, 7/29, 9/30, 10/28, 11/25 * 分野別委員会委員長も参加)
 - ○第三部「意思の表出」等意見交換会の企画、結果のまとめ
 - ○夏季部会の企画
 - ○あり方問題、科学的助言機能、連絡会議と分科会の連携等について意見交換
 - ○その他
- (3) 第三部「意思の表出」等意見交換会(7/8.13)
 - ○「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」を受け、意思の表出等の審議プランを 第三部内で共有することを目的
 - ○7月8日に2スロット、13日に1スロットに分けて合計8時間の意見交換を実施(45件)
 - ○参加者は、第三部役員、菱田副会長と分野別委員会委員長、分科会役員等
 - ○交換会終了後、検討中の意思の表出について、分野を分類し、他の委員会等との連携 の有効性、関連性を整理

5

3. 学術フォーラム開催

「気候変動等による地球環境の緊急事態に社会とどう立ち向かうかー環境学の新展開ー」(R3.7.3)

環境学委員会【オンライン開催】

「カーボンニュートラル社会を支える最先端分析技術」(R3.11.11) 化学委員会分析化学分科会【オンライン開催】

4. 公開シンポジウム開催

「第67回構造工学シンポジウム」(R3.4.17~18) 土木工学・建築学委員会【オンライン開催】

「国際光デー記念シンポジウム ~レーザー誕生60年~」(R3.5.21) 総合工学委員会ICO分科会【オンライン開催】

「第33回環境工学連合講演会」(R3.5.25) 土木工学・建築学委員会【オンライン開催】

「地質災害研究の最先端と社会実装への取り組み」(R3.5.26) 地球惑星科学委員会IUGS分科会【オンライン開催】

「安全工学シンポジウム2021」(R3.6.30~7.2) 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・ リスク検討分科会【オンライン開催】

7

4. 公開シンポジウム開催

「生存情報学ー人類的、社会的課題に対して、情報学としていかに取り組み生き延びるか」(R3.7.19)

情報学委員会環境知能分科会【オンライン開催】

「ジェンダード・イノベーション(Gendered Innovations) ~ 一人ひとりが主役の研究 開発が新しい未来を拓く~ I(R3.8.18)

第三部、中国・四国地区会議、科学者委員会男女共同参画分科会【オンライン開催】

「大学入学共通テスト『情報』が目指すもの」(R3.8.26) 情報学委員会情報学教育分科会【オンライン開催】

「「水」と「水循環」の研究最前線-21世紀の多分野協創研究にむけて」 (R3.9.18)

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会【オンライン開催】

「海空宇宙のCOVID-19対応と今後のパンデミック対応に向けて」(R3.9.22) 総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会 【オンライン開催】

4. 公開シンポジウム開催

「教育データの利活用の動向と社会への展開」(R3.10.16)

情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会【オンライン開催】

「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題」(R3.11.6)

化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会、環境学委員会環境科学分科会、総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会【オンライン開催】

「なぜSDGs?ー資源・材料循環におけるSDGsー」(R3.11.26)

材料工学委員会・環境学委員会・総合工学委員会SDGsのための資源・ 材料の循環使用検討分科会【オンライン開催】

9

5. 理学·工学系学協会連絡協議会

令和3年6月24日 10:00~12:00 WEB開催

- ○「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」、日本学術会議の任命問題に関する声明等の一覧、 日本学術会議における分野横断的テーマへの取組について説明
- ○参加した学協会と次の事項について意見交換を実施

オープンデータ・オープンサイエンス、カーボンニュートラル、政府の審議会等との関係、第6期科学技術・イノベーション基本計画、学術会議の議論すべき内容、情報共有、新しい技術への対応等

理学・工学系学協会連絡協議会(82学協会) 日本学術会議第三部役員会のもとに、理学・ 工学系の学協会との連携を強め、双方の活動をさらに発展させるために、科学・技術、学協会、日本学術会議等に関わる課題について意見交換する場として設置。多くの学協会に共通する課題(新公益法人制度、学術論文誌の出版、若手・人材育成、財政等)、科学・技術全般に跨る課題、学協会から日本学術会議への意見・要望等について、情報交換・意見交換を行ってきた。 第1回 平成22年4月23日(金)13:30~15:30 第2回 平成23年7月29日(金)13:30~15:30 第3回 平成24年5月18日(金)14:00~16:00 第4回 平成25年2月22日(金)10:00~12:00 第5回 平成26年6月25日(水)13:30~15:00 第6回 平成28年6月24日(金)10:00~12:00 第7回 平成29年8月31日(木)10:00~12:00 第8回 平成30年3月30日(金)10:00~12:00 第9回 平成31年3月28日(木)10:00~12:00 第10回 令和2年8月26日(水)10:00~12:00 第11回 令和2年10月30日(金)13:00~15:20 第12回 令和3年6月24日(木)10:00~12:00

6.今後の主な予定

令和4年第三部夏季部会の企画

意思の表出の改正に伴う、第三部内の査読プロセス検討

11

第25期日本学術会議 若手アカデミー活動報告 (2021.4-2021.9)



第25期若手アカデミー

日本学術会議若手アカデミー(Young Academy of Japan)は、 人文・社会科学と自然科学にまたがる多様な分野にわたる、 45歳未満の研究者をメンバーとしています。

第25期全体委員数:50名

(うち特任連携会員:7名)

全体会議 11月30日,2021年12月10日(予定) 運営分科会 12月16日,1月21日,2月22日,9月1日

8つの分科会(具体的な活動を担う)

学術の未来を担う人材育成分科会 (12名) 学術界の業界体質改善分科会 (5名) 越境する若手科学者分科会 (19名) 国際分科会 (11名) 地域活性化に向けた社会連携分科会 (14名) イノベーションに向けた社会連携分科会(12名) GYA 総会国内組織分科会 (14名) 情報発信分科会 (11名)



全体会議スクリーンショット

第25期若手アカデミー運営分科会メンバー

幹事団



岩崎 渉

各分科会 委員長





国際分科会



入江直樹



学術の未来を担う 人材育成分科会 平田佐智子



副代表 安田仁奈



GYA 総会 国内組織分科会 新福洋子



越境する若手科学者 分科会 石川麻乃



幹事 小野 悠



学術界の業界体質 改善分科会 川口慎介



情報発信分科会 髙田知実



松中 学



地域活性化に向けた 社会連携分科会 加藤千尋



イノベーションに向けた 社会連携分科会 高瀬堅吉

若手アカデミー分科会活動状況 (1/2)

分科会名	活動目的・内容	開催状況
地域活性化に	現在国内外の社会経済状況が大きく変化する中、科学と地域社会との関係性が	第1回 1月19日開催
向けた社会連	問い直されている。社会課題の解決に科学の知識や手法が有効であるだけでな	3月1日公開ワーク
携分科会	く、科学する場としての地域社会、科学への市民の参加が見直されている。地	ショップ「若手科学
	域社会における科学者の役割を幅広く検討し、多様な主体との対話を重ねるこ	者が拓く地域と科学
	とで、科学と地域社会の持続的な関係性を再定義し、実現方策を検討する。	の関係」開催
		第2回 6月2日開催
		第3回 12月10日開催
学術界の業界	研究従事時間の減少とそれ以外の業務の増加が指摘されるなか、研究に集中で	第1回 2月12日開催
体質改善分科	きる環境整備と健全なライフ・ワーク・バランスの確立は、重要な課題であ	第2回 11月22日開催
会	る。学会活動にかかる時間的負担やその他の慣例的な業務負担など、学術界の	
	様々な「業界体質」を可視化し、その改善に向けた調査・議論を進める。	
イノベーショ	第25期若手アカデミービジョン・ミッションを共有し、「イノベーション」の	第1回 2月22日開催
ンに向けた社	概念整理に着手している。現時点で優先すべきイノベーション、イノベーショ	第2回 4月16日開催
会連携分科会	ンを起こすために必要なもの、イノベーションを阻むものについて議論する。	第3回 11月16日開催
	今後、シンポジウムを開催し、広く市民との意見交換の場を持つとともに、関	第4回 12月10日開催
	係団体と意見交換を行い、議論の内容を意思の表出へとつなげる。	予定
情報発信分科	若手アカデミーの活動を促進し、その有効性を高めるために、情報発信の媒体	第 1 回 4月15日開催
会	┃や方法を議論し、実践する。国内のアカデミアとその周辺に限定せず幅広い利	第2回7月12日開催
	害関係者をステークホルダーと捉え、若手アカデミーに関する理解や認識を得	
	ながら対話し、双方向的なコミュニケーション活動を目指す。	

若手アカデミー分科会活動状況 (2/2)

分科会名	活動目的・内容	開催状況				
学術の未来を 担う人材育成 分科会	大学院において専門教育を受けた多様な人材を活かすべく、高等教育が担う教養教育・専門教育の社会的価値を多角的に評価するための調査・議論を進める。また、大学院生が効果的な教育を受け研究に専心できる環境を構築するための調査・議論や精神的・経済的な環境に対して支援する枠組みのあり方について検討をおこなう。	第1回 2月17日開催 第2回 11月30日開催 予定				
越境する若手科学者分科会	幅広い専門分野を持つ若手科学者の間の研究交流を図り、既存の発想にとらわれない科学分野間の融合によって革新的な研究展開が生じうる新規領域やそれらが生む未来社会のビジョンの提案、新しいテクノロジー等を用いた市民との 交流の実践を行う。	第1回 2月26日開催 研究交流会5回開催 第2回 5月18日開催 第3回 12月10日開催 予定				
GYA 総会国内 組織分科会	国際的若手学術組織であるグローバルヤングアカデミー(GYA)と共に、科学技術の未来や世界規模の社会課題の解決を考えるGYA総会兼学会を日本で開催する。GYA共同代表、執行役員およびメンバーで構成される企画組織委員会と連携し、企画内容および登壇者の提案や国内的な準備を行い、かつ若手アカデミー以外の若手研究者や若手以外の研究者、行政官、産業界、一般市民も参加できる議論の場を設定できるよう連絡調整を行う。	第1回 1月21日開催 第2回 3月12日開催 第3回 6月17日開催 第4回 10月8日開催				
国際分科会	世界における日本の学術の役割や、世界におけるわが国の学術をどのように進めていくべきかについて、若手科学者の立場から考える。既に関係の深い国際的若手学術組織であるGYAへの参画を通じ、他国の若手アカデミーとの交流を深め、また我が国との交流連携を深めるとともに、他国のアカデミーと共同して国際的発信を行う。	第1回 2月15日開催 第2回 3月24日開催 第3回 12月10日開催 予定				

活動資料(地域活性化に向けた社会連携分科会)

公開ワークショップ 「若手科学者が拓く地域と科学の関係」

・開催日:2021年3月1日 ・開催方法:Zoomウェビナー

・参加人数:143名

①一般参加者:122名(事前登録139名,参加率81%) ②登壇者:16名(岩崎・加藤・田中・松中・小野含む)

③運営:5名(岸村・近藤・高田・高槻・寺田)

趣旨:人口減少や少子高齢化、災害など様々な課題を抱える地域社会において、知識基盤・人材育成の中核として大学の役割が今後益々求められる。社会課題の掘り起こしから解決策の実行、新しい社会価値の提案まで、地域の大学、市民、企業、行政がともに持続的に取り組める仕組みが必要である。今回、様々な専門分野の学生・若手研究者による地域での実践を通じ、愛知県豊橋市の事例から、地域の方々とともに地域と科学のあるべき姿について議論する。



日時: 2021年3月1日(月) 13:00-16:30 開催: オンライン開催(Zoom ウェビナー)

主催:日本学術会議者手アカテミー 地域活性化に向けた社会連携分科会 共催: 曹橋まちなか会議、賈橋技術科学大学 後援: 公益財団法人日本学術協力財団組団仏一族:

こちらより事前にご自様ください

若手科学者が拓く地域と科学の関係

1300 開会被接 岩崎液(東京大学・准教授)

1310 順程規則

1320-1350 基調講演「地域と科学を結ぶ大学の役割」 大海路 (新市工学) 専用技術科学大学・非学科/東京大学・文学科

1350-1420 議演「若手料学者がみる地域と科学の関係」 田中和館 (人工知能) 接頭研究大学院・リサーチ・フェロー) 松中子 (法学) 名古部大学・教唆)

1430-1455 講演「学生がみる地域と科学の関係」 北王秋輝 (建築守) 豊龍技術科学大学・修士課程) 宮本麒太郎(毎市工学) 東京大学・修士課程) 佐藤寛紀(理論生物学)東京大学・修士課程)

1455-1540 漢漢「曹橋における地域と科学の関係」 原木伊比古(人文地理学・愛切大学・牧授) 佐野温貞(機械工学・曹橋技術科学大学・遊教授) 大村講(情報知能学)曹橋技術科学大学・遊教授)

1540-1620 パネル討論「豊橋から拓く地域と科学の関係」

16:20 閉会挨拶 加維千母 (弘前大学 - 助教)



活動資料(地域活性化に向けた社会連携分科会)

公開ワークショップ 「若手科学者が拓く地域と科学の関係」

70代以上 参加者の年代(n=45) 20代 9% 参加者の職種(n=45) 9% その他 13% との代 13% 公務日・ 13% 公務日・ 13% 公務日・ 13% 公務日・ 18% 会社日 7% 空生 技術戦 7% 27%

実施概要:

若手アカデミー主催、豊橋まちなか会議、豊橋技術科学大学共催、公益財団法人日本学術協力財団原田弘二基金後援による公開ワークショップをオンラインで開催し、地域と科学を結ぶ大学の役割、地域と大学・研究者の連携のあり方について愛知県豊橋市を事例に議論を行なった。大学関係者のみならず、企業、行政などからも地域と科学の関係について高い関心が寄せられていることを改めて確認した。



若手アカデミー活動資料



Japan Open Science Summit 2021 企画セッション 「学術会議若手アカデミーと考えるオープンサイエンス」 2021年6月18日 (金)

企画趣旨: オープンサイエンスはOECDによれば「公的資金による研究成果を広く社会に開放すること」と定義されるが、その本質は学術の知識生産システムそのものを社会に開放することにあり、学術と社会の関係そのものを問い直すアクションの一つと捉え直すこともできる。オープンサイエンスのアクションの担い手として、学術の将来を担う若手研究者の積極的な参画が期待される一方、若手研究者は減りゆく安定的なポジションを得るための熾烈な業績競争に晒されており、研究データの公開・共有に消極的であるという調査結果もある。

本セッションでは、日本学術会議の45歳未満の会員・連携会員から構成される若手アカデミーのメンバーとともに、若手を取り巻く環境と課題を考慮しつつ、学術と社会のよりよい関係構築に資するオープンサイエンスのあり方を議論する。

若手アカデミー活動資料

筑波会議2021セッション(2021年9月27日) 「オープンサイエンスと在来知をめぐる倫理的諸問題」

企画者:日本学術会議若手アカデミー

オーガナイザー:近藤康久

概要:公的資金による研究成果を広く社会に開放するオープンサイエンスの動きが国内外で進んでいる。科学技術政策としてのオープンサイエンスは研究データのオープン化をねらいとするが、地域社会に備わる伝統知・在来知は、必ずしもオープン化にそぐわないことがある。本セッションでは、哲学、民俗学、保全生態学、看護学などの若手研究者が、研究の現場における在来知の取り扱いに関する経験を持ち寄り、科学知と在来知の融合やオープン化の望ましいあり方について国際的に議論する。

今後の若手アカデミー活動予定

「縮退時代における持続的なまちづくり

~遺伝子から生態系、宇宙まで~ 」(仮)

日時: 2022年3月

場所:オンラインorハイブリッド 企画者:越境する若手科学者分科会

開催趣旨:若手アカデミー越境する若手科学者分科会では、幅広い専門分野を持つ若手科学者の間の研究の連絡を図ることで、既存の発想にとらわれない科学分野間の融合により起こりうる新規領域や、そうした研究を成功に導くための方法論を検討している。水環境と都市工学チームは、水と都市、そして「ゆらぎ」をキーワードに、縮退の時代における持続的なまちづくりのあり方を模索することを通じて、専門分野間のつながりや新たな学問領域および社会実装の可能性を議論してきた。本ワークショップでは、遺伝子サイズから宇宙スケールまで、生命・物質・空間・システムなどさまざまな対象を見つめ、日々挑戦する産官学の若手の取り組みから新規領域の開拓に迫る。

今後の若手アカデミー活動予定

国際代表派遣

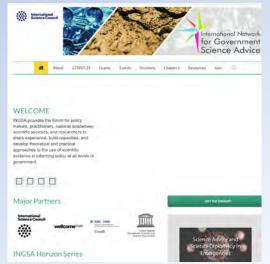
2021年6月

Global Young Academy総会 4名(岩崎・新福・岸村・安田)

2021年9月

INGSA 1名(新福)





今後の若手アカデミー活動予定

Global Young Academy 2022年次総会兼学会

九州大学伊都キャンパス、2022年6月11日-18日

委員長:新福洋子

テーマ:理性と感性のリバランス~科学と社会の関係性の見直し、

新たなつながり方による包括的、持続的な社会の形成

日本学術会議の共同主催国際会議として採択





①科学知と在来知の発展的融合 ②科学者の社会との コミュニケーションの拡大 ③市民の科学的プロセスへの参加 に関する具体的議論により、 科学と社会の新しいつながり方を 提案する。 第25期若手アカデミー ビジョン・ミッション

20年後の科学・学術と社会を見据えたリモデリング戦略を考える

- 研究者コミュニティのみならず政府・産業界・メディア・国民 や諸外国の若手アカデミーとも対話・連携することで、世界や 日本が直面する諸問題、また、若手研究者をとりまく諸問題に 関する解決策を提示し、実行していく
- 多様な観点から分科会活動を行うとともに、幅広い専門性からの知見を集約することで、20年後の科学・学術と社会を見据えた「リモデリング戦略」を提示する

どうぞ、よろしくお願いいたします。

